**№44　テーマ『21世紀・日本の使命』**

**講話日2004年2月16日**

**司会：それでは先生、お願いいたします。**

**芳村：はい。皆さん、こんにちは。**

**一同：こんにちは。**

**芳村：今年、第１回目の感性論哲学のセミナーです。だいぶ何回も、皆さま方には感性論哲学というものはどういう内容のものなのかお話を聞いていただいて、だいたいわかっていただいてると思うんですけども、今日からまたあらためてですね、現実に対応する、この人間の生き方、仕事の仕方の問題の根本から、まずお話をさせていただきたいと思います。今、激動の時代というふうにいわれて、今、社長さんもおっしゃっていただきましたようにですね、今、とにかくは、どんなことをするのでも、今までのままではいかんというふうにこういわれてるわけですよね。しかも、そこには原理的な変革といわれる根本から変えていくというですね、そういう自覚があらゆる領域において要求される。だけど、その根本は、まず自分を激変させることなんですね。そして、今は量から質への時代と変わってますから、自分を質的に変えていくというですね、そういうふうなこの自己変革が望まれておる。だけども、この自分を変えるということは、ある意味で、その個性との釣り合いが大事でですね、個性はつぶしてはならない。個性を生かすという形で自分を変えていく。**

**すなわち、自分をただ他の人と比べてなんの特徴もないという、そういうふうなですね、状態の自分から、この人なしにはこの会社は成り立たない。あるいは、この人の代わりは誰もいないといわれるようなね、そういう自分というものをどういうふうに輝き出させていくかですね。これが、この自分を成長させながら、自分の命に輝きを与えて、そして、他に置き換えの利かない自分というものをつくっていく。これが本当の意味での自己変革であります。自分の性格を変えたりね、自分の能力を変えたり、そんなことはする必要はない。能力は伸ばさなければならない。変える必要はない。性格もそこに輝きを与えていかなきゃならないのであって、性格は変わらないからね。変えられませんからね。それは、磨いて、磨いて、成長させていく。**

**これも今、野球でもですね、イチローでもそうだし、この野茂でもそうだし、松井でもそうだ。みんな、ああいう人たちというのはですね、自分をこの変えてああなったんじゃなくって、自分を成長させたんですよね。特に野茂とか、イチローとかというのは、個性を磨いて、独特の個性を輝きだしたんですよね。癖を普通、直されてしまうんです、これはね。それがこの特徴のない人間をつくる方法で、今は個性の時代ですからね、癖は直したらいかん。いろいろ性格に問題点はありますけどね、どんなことにもやっぱり、マイナス面、プラス面があるんですよね。だから、あらゆるものをですね、プラスの面に焦点を当てて伸ばしていくというね、そういうことをしなければならない。癖も磨けばですね、癖というのは、その中に個性が含まれておる、そういうこのものですからね、癖を磨けば、その個性が輝き出てきて、独特の誰にもまねができんというね、そういう何かしら、能力かスタイルか、そういうのが出てくるんで、これが俺の仕事の仕方やと。この仕事の仕方は誰もまねができんと。個性でありながら、しかし、この素晴らしい能力というものは必ずその時代に受け入れられていくんですね。仕事でも、ほかの人は嫌や。あの人に来てもらいたいんやと言われるようなね、そういう魅力が本当に個性を輝き出せれば出てくるわけですね。**

**そういう意味で、決して性格は変える必要はない。能力も変えたらいかん。変わらん。能力を磨いて、自分のその性格を磨きだして、その磨きだした性格と能力に魅力を持たせていく、輝きを持たせていく。それがいわゆる努力することなんですね。それが成長で、自分らしい人間になることですね。それが一番、会社に貢献することです。とにかくこれからは、会社は人だと。人が成長せんことには、会社は成長しない。しかも、存在感のある会社にならなければ生き残れない。だから、その会社の中にいる人たち一人一人が、存在感がなければならない。一人一人がこう、きらきらしてると。みんな個性がある。実際問題ね、こうやって失礼ながら、壇上から皆さん方のお顔を拝見してれば、みんな一人一人、個性がありますよ。学校、大学で教えておっても思うんですけどね、これは能力にはいろいろ、ようできる人もおるし、あんまりできない人もおるけども、だけど、とにかくその姿形はどうであれ、一人一人の顔を見てるとね、こいつをドラマの主役にしたら、どんなおもろいドラマができるだろうかと思うんですね。本当、一人一人がみんなね、ドラマの主役に見えますよ。一人一人がスターに見えるんですよね。**

**みんな個性があって、顔が違うしね、態度が違うしね。これは中には、ピアスしとったりね、それも耳にピアスならいいんだけど、舌にピアスしとったりね、唇にピアスしとったりね、もう腰を見たら、じゃらじゃら鎖、つるしとったりね。もうズボン半分下がって、半けつ状態になっておったりね、いろんなやつがおりますけどね、これがドラマの主役だったらと思うたらね、ものすごい魅力が出てきてね、一人一人、ものすごく輝き始めるんですよ。それでね、こうやって教室から、壇上というか、教壇から教えておってもね、一人一人、スターに見えるんですよね。本当、顔を見る度にね、なんか憧れちゃうわけですね。えー、こいつにこんな素晴らしい魅力があるかと思ってね、ものすごく憧れてしまうんですよ。若いときは、だいたいやくざに憧れたりね、だいたい暴走族に憧れたりね、そういうこの一種、アウトサイダーに憧れるというのはあるわけですけど、べつに若いときじゃなくても、われわれの年になってもね、やっぱり何かしらね、個性には何かしらね、引き付けられるところがありますよ。一人一人の顔を見とったら、完全に個性なんだ。もう顔がこれ、全世界を見ても、その人だけですから、顔はみんなオンリーワンなんですよね。オンリーワンっちゅうことは、みんな世界一なんですから。その顔の持っておる、この個性、能力、性格というものに磨きを掛けたらね、みんなきらきらしますよ、これは。**

**だけど、その自分のそういう命の輝きというものをね、自分がこう、自分自身で自覚的にこれを表現できるようにならないと輝きませんからね。俺の能力の個性はここやっていうんでですね、それに磨きを掛けて、このことについては俺の右に出てくる者はおらんぞとね、いうふうな、そういう形に持っていったりね。なんでかしら、そういうね、俺は俺なんやと。俺の代わりをするやつは誰もおらん。そういうこの他に置き換えるわけにいかん俺というものをですね、仕事においても、生き方においてもね、つくっていく。本当に個性が出たらね、社長さんと勝負できますよ。これが俺のやり方やと。このやり方においては、社長よりも俺のほうが勝っておるとね。そういうふうにこう言えるような自分になってきて、そうなると会社はものすごいね、活力を持って発展し始めますよ。あの会社の社員はすごいと。一人一人、めちゃめちゃ個性的やと。みんな素晴らしいと。そういう会社になることがね、今、望まれているわけですよ。もう画一化の時代じゃないんですから。社長さんの命令に従ってみんなが動いてるという、そういう、そんな機械みたいな会社はもうこれからいらんのですよ。みんなが個性を持って、お客さんが自分を担当してくれる社員を選ぶと。今度の仕事、あの人に担当してもらいたい。自分の会社は、あの人を窓口にしてやってもらいたい。そういうふうにこう言えて、相手の個性とですね、その会社の社員の個性とがぴったり合って、いろんな仕事が進んでいく。一人一人がね、個性を持てば、そういう会社になりますよ。**

**とにかくこれからは、会社の発展は、人間の発展性と人間の成長によって会社の発展は決まるという、人の時代ですからね。人間の成長というのは、これは能力の成長と人間性の成長という両面があるわけですけども、みんなとにかくは、自分の個性を輝きださせようと思ったら、自分の能力の特徴と、自分のこの人間性の特徴というものをですね、本当にちゃんと知って、そしてその能力と人間性をプラスに表現できるようなね、もうそういう力をつくっていかないといけません。能力も人間性もプラス面とマイナス面がありますからね、ある能力は、その違ったことにはマイナスですけど、その型にはまったらものすごい力を発揮する。人間性というものはプラス面とマイナス面がありますからね。だから、マイナス面があんまり出てこないようにして、プラス面がどんどん出てくるような、そういうこの努力をしないといけないわけですよね。どんなものにもマイナス面があります。あることができれば、その反対の、反対のというかね、そのあることができれば、他の能力はそれよりも低いですから、マイナス面になります。だけど、マイナス面を補うに余りあるこの特徴ある能力を持っておったならば、もうそれで十分仕事ができるわけですよね。**

**これは、松井でも、野茂でも、イチローでも、野球はすごいかもしらんけど、ほかのことをさせたら、全然ぱあですからね、これは。だいたい野球選手というのは、みんなばかだと決まっておったりして、野球はできるけども、勉強は全然できんと。だいたい野球ばっかりやってきたから、野球できるようになったんで、勉強をしとったら、野球なんかできませんからね。だから、能力はあっても、一応、勉強はしてないから、勉強は駄目なの。野球なら任しておけということになってくる。それでいい、社会はね。それで人生はいいんですよ。自分の特徴を自分が発揮して、自分の駄目なところは他の人に助けてもらったらいい。助けてくださいって言って。自分一人でなんでもかんでもやろうと思うから失敗するんですよね。これからチームワーク、パートナーシップ、統合の時代ですからね、力を合わせてなんでもやっていかないかん。一人で完璧にしようと思ったら、これは人間、不完全ですから、不可能であります。自分のできんことは他人に助けてもらって、自分の駄目なところは他人に注意してもらって、そして、補ってもらって、パートナーシップで完全なものに近づけていく。そういうふうな作業をね、これから個性の時代ですから、していかなければならない。**

**とにかくそういうふうなですね、これからの仕事の仕方も、人間の生き方も、とにかく激変しますよ。そういう意味で激動の時代なんですよ。激動の時代なんだから、俺だけ激動をせんとどうするんやっちゅうことですね。時代が激動してるんやからですね、俺も激動せないかんと。俺も激しく変わらないかん。その変わり方は量から質へ、画一性から個性へ、激しく質を向上させる。激しく個性を磨いていく。個性を輝きださせる。他に置き換えのできん俺になる。そういうふうなですね、この意識で一人一人が自分磨きをしないといけないんですよね。とにかく本当にね、人生そのものがね、激変していく、激動していく、激しく変わって、変わるといっても、悪いほうに変わっちゃったんじゃしょうがないので、自分をいいほうに激変させていくというね、このダイナミックなね、身の打ち震えるようなね、この素晴らしい努力をね、ぜひ一人一人がやってもらったらね、それはもう会社はもうピカイチになりますよ。自分を激しくいい方向性に変えていく。自分も幸せになりますけどね、会社も輝くんですよね、それで。**

**本当は皆さん方もね、一人一人はもっと輝きたいと思ってるはずなんですよ。もっと命を輝かしていきたい、燃えていきたいと。つまんない、だらしない、だらけた生き方なんて本当はしたくないはずですよ。だけども、姿勢を見とったら、ほとんどの人はだらけてますよ。今は、今この瞬間でも、誰もぴしっとした姿勢で聞いてる人、いませんよ。気持ち自身がもうこの会社の格にふさわしくないですよ。よくですね、教育においても、本当に根性を立て直すということをする場合には、立腰教育といってね、腰骨を真っすぐ立てる。とにかくもたれて座っておったりね、前かがみだったりするんじゃなくって、直角にこう椅子にちょこんと腰を置いて、そしてぐっとお尻を後ろのほうに持っていって、背もたれのところに直角にこの背をね、立てて座る。それが座ってるっちゅうことであって、だらっと座ってるのは、これは座ってるんじゃない。もたれてる、もたれてる、寄り掛かってるんですよね。座るということは、自分で座ってないといかん。ちゃんと座れば、腹が据わる。ちゃんと座れば、気持ちが据わる。そこで命が据わってきて、びしっとこう、この姿勢に魂が入るわけですね。そうすると、もう気持ちがびしっとこう決まってきますからね、これはもう自分で自分にだらけることを許せませんよ、そうなってきたらね。そういう姿勢で仕事もし、そういう姿勢で行動し、そういう姿勢でものを言わないかんと。**

**先ほども社長さんが司会の方にご注意されましたけどですね、やっぱり、この人の上に立つ者は、全体というものを常に自分がこう掌握しながらね、その全体というものを掌握しながら、ものを言い、行動せんないかん。自分だけの思いでばあっと自分の仕事だけしとったらいいんじゃないと。起立と言ったら、みんな起立するまで待っとらないかん。まただらだら起立するやつがおったら、叱らないかん。礼と言ったら、礼が終わるまで待っとらんないかん。そして、礼が終わったら着席と言わんないかん。自分本位で、他人のことは見ないでですよ、他人のことは考慮しないで、自分本位で行動してたら、それは組織の人間じゃない。組織というのは全体というものを常に意識しながら、自分が動いていなければならない。今は組織でもですね、昔の機械的組織から有機的組織へと組織論そのものが変わってましてですね、機械的組織というのは、画一的に命令に従って、軍隊みたいにみんなが動くというのは、あれは機械的組織ですけどね、だけど、有機的組織というのは、一人一人の組織人が常に全体のことを自分の気持ちに入れながら、頭に入れながらですね、その全体の中で俺は今、何をしたらよいのかという、常に全体を自分のこの視野に入れながら、その中で自分が今するべきことをするというね、そういうこう全体の中での、その自分の動き方、あり方というものを常にこう意識しながらやってるというのは有機的組織論というんですよね。**

**これは、命のね、命、人間は60兆個の細胞から成り立ってますけど、60兆個の細胞がね、みんなそれぞれ自分本位に動いてんじゃない。なんで60兆個の細胞が１個の命として働いてるのか。その60兆個の細胞一個一個がね、この全体というものを常に意識しながら、その60兆個の中で今、自分が取るべき、この活動の仕方というものを一瞬一瞬、判断しながらね、動いてるから、全体は有機的にまとまるんですね。60兆個の細胞が一個一個ばらばらで、身勝手なことをやっとったらね、命なんて成り立ちませんから、生きられません。なんで60兆個の細胞がね、この１個の命として統制の取れたですね、ちゃんとバランスの取れた、生きるという活動ができるのか。それは一個一個の細胞の中にですね、この全体というものを常に表現する染色体があって、染色体の中には遺伝子がある。この染色体の中にある遺伝子は60兆個の細胞全体に共通してるんですよね。だから、一個一個の細胞が全体を常に自分が掌握してるんですよ。常に全体というものを自分が持っておりながら、その中で自分は何をしたらいいのかっちゅうことを判断してるんですよ。これが組織なんですよ。**

**だから、自分の仕事だけしとったらええんで、その次の仕事、俺は知らんことやって、これではね、組織は死んでしまいますよ。常に自分が仕事をするときには、それを手渡す相手にとって都合のいいようなね、そういう手渡し方、そういう仕事の仕方で相手に手渡さなきゃならん。ずっと仕事は会社として、組織として流れて、順番にずっとこう仕事をこなしていくという流れがありますからね、自分のすることさえ自分がやっとったら、あとは知らんというのは、これは機械的な流れ作業ですよ。だけど、有機体というのは、相手の気持ちを考えて、そしてこの仕事をして、そして相手にとって仕事のしやすいような仕方で渡していく。常に相手の心を考え、相手の立場を考えて、それを配慮しながら自分が仕事をしてるという、もっと質的な高度なですね、仕事の仕方がこの新しい組織論においては求められるわけですね。自分の仕事さえしとったらいいんやない。みんなにちゃんとこう、心を遣いながらですね、この自分の仕事をするということをしなければならない。**

**私も何回もここでね、こうやってお話をさせてもらってますけども、やはり毎回毎回ね、司会される方の、その司会の仕方に疑問を感じました。あんまり厳しいことは言いませんでしたけどね、だけども、非常に気になってました。というのは、司会される方がみんなのことを考えないで、自分の言われたことさえやっとったらええんで、そのあと、あとのことは知らんぞというね、そういう感じの司会の仕方の人がほとんどでした。これではやっぱり、この会社はいかんなと思いました。一人一人が全体のことを常に考えながら、みんなと心を一体にしながら何かをしていくという姿勢がまったくありません。みんな自分本位です。人のことは知らんという、そういう感じです。これでは会社は死んでしまいます。みんなが、みんなのことを考えながら、自分の行動の仕方を決めるというね、そういう姿勢が大事です。**

**組織というのは、よくスポーツで言われることですが、組織というのは、One for All、All for One、みんなは一人のために、一人はみんなのために。みんなが一人のために協力して、その人間を盛り立てていく、助けていく。そして、一人もまた、みんなのことを考えて、そして今、自分のするべきことを、みんなのことを考えながらすると。これが生きた組織のね、あり方であって、これはスポーツでよく言われる、All for One、One for All、輝く素晴らしい結果を出すチームは、みんなそういう意識でやってます。誰かが他人のことを考えないで、自分の持ち場さえ完璧にやったら、ほかの持ち場、俺は知ったことかというね、そういうふうなことでは、チームはもう死んでしまいますよ。チームはチームとして動きません。チームは有機体ですからね。一人がみんなのことを考えながら動かなければならない。またみんなは、一人のことを常にこの意識に入れながら動かなければならない。ぜひ、このAll for One、One for Allという精神をですね、このアサヒグローバルの仕事の仕方にも、あらゆる作業に魂として取り入れてもらいたい。**

**もちろん、社長さんのね、顔色をうかがいながら、どうしたらええかと思って、戦々恐々として失敗しないように行動するようなこともね、これはこの、あるときには大事ですけども、だけども、会社というのはそれだけでは成り立たない。自分と一緒に仕事をしてる仲間のことを最もよく考えなければならない。仕事はそういう共に働く仲間と一緒にするんですからね、仲間に失敗させないように、何か失敗しそうだったら、ちょっと一言、愛のある言葉で注意をする。忠告をする。きついこと言わんと、愛ある言葉で、優しい言葉で忠告をする。失敗したら、一人でそれを報告するのが怖ければ、一緒に付いていってあげると。一緒に仕事をしたんやから、みんなで社長さんに謝りに行こうやと。こんなことをやってしまいました。お客さんがこんなことを言われました。本当に残念です。だけど、これからそういうことのないように頑張りますから、今回、許してくださいと。みんなで謝りに行こうやと。決して一人の人間を血祭りに上げて、一人の人間に責任をかぶせて、それでおしまいじゃ、組織は情けないですよ。組織なんですからね。組織で謝らないかん。あと組織で喜ばないかん。組織で泣かないかん。組織で腹を立てないかん。一人じゃないんですよ。一緒に仕事をしてる仲間で、喜んで、泣いて、悲しんで、怒って、それが組織ですよ。あいつが失敗したんやから、俺は知らん。これはもう機械ですよね。組織じゃない。命じゃない。**

**組織はみんながその一人のことを大事にしながら、協力し合いながら動いてるんですからね。失敗もその関連の中で生まれてきますよ。お互いに助け合いながら動いておったら、本当に一人の失敗は、あのとき俺があれ言わへんなら、あの失敗はなかったかもしらん。俺がああいうことをせえへんなら、あの失敗はなかったかもしらん。みんな横のつながりの中で出てくる現象ですからね、一人の失敗もみんなの失敗や。決して一人の責任だけにしてほっとかへんど。おまえの失敗は、みんなの失敗や。みんなで謝りに行こう。そういう愛ある組織にね、ぜひしてもらいたい。そしたら、仕事の質はね、どんどん上がっていきますよ。これから、とにかく質の時代ですからね。もっともっと日本の建築会社はね、この質の高い、素晴らしい住宅をつくるようにならないけません。今、日本にある住宅は、まだまだね、レベルが低いです。もっともっと、この全世界からね、最高品質とはなんなのかということをね、もっともっと学ばんといけません。日本人はこれから世界一、品質の高い、品格の高い建築をつくって、世界に提供しなきゃなりません。あらゆる国の建築業界を指導していかなければなりません。**

**日本の風土に合う建築だけじゃない。アラビアの風土に合う建築も、あんな一旦地震が起こったら、何万人と死んでしまうような建築をいつまでも建てさせて、放っておいたらいけません。俺たちが出ていって、あんなことのない、もっと安全な、あの風土に合った、もっと素晴らしい建築をつくったろうやないかと思わないけません。ただ対岸の火事として、俺の関係ない地震として見ておったらいけません。あの壊れた家の下敷きになって死んでしまう人がおったら、あれは俺たちがなんとかせないかんことやと思ってもらわないかん。それがこれからのね、この日本人の国際的な意識にならなきゃなりません。あれを見て、俺の使命はなんなのかということを知ってもらわないけません。人間の生き様というのは、現在の自分の生き方というのは、世界におけるすべての出来事に関係してます。世界におけるすべての出来事の中から、自分の仕事に関係あることやったら、俺がその難問に答えてやろうやないか。そういうふうにして人間は自分の人生の使命を感じ取って、そして、この命をそのために使って、歴史に名をとどめて死んでいくんです。ひょっとしたら、あのイランのね、ああいうふうなイランやあの地域に起こる地震で、ああいう災害が起こる、そのことについては、何か日本人がそういうこの発案をしてね、そして、こういうふうにしたら、こんなことにはならん、いい住宅がつくれるという提案をしたら、ひょっとしたら、日本人がイランからね、国を救った父として、永遠にあがめられるような、そういうこの存在になれるかもしれませんよ。**

**日本でも明治維新ね、ヨーロッパからいろんな学者が日本にやってきてね、そして日本の近代化の教育に協力して取り組んだ。Boys, be ambitiousといって、青年よ、大志を抱けと言ったクラーク博士の言葉も有名ですけど、そういうふうな人間に日本人がイランでなれるかもしらん。建物が壊れて死んでるんですからね、皆さん方にものすごく関係あることですよ。あんな悲惨なことで、家の下敷きになって死ぬなんて、これはほっとけんわと思わないかんですよ、これは。俺の知らんことやと思ったら、これは建築の仕事をしてる人間にとって恥ですね、これは。いかにも自覚が疎い。視野が狭い。あんなかわいそうなことと思わないけませんよ。ああならんような家、建てたろうやないかと思わないけませんよ。俺は、情熱があったらね、社長さんに直談判に行って、俺をイランに行かしてくださいと。アサヒグローバルをイランで売ってきますとこう、言うかもしれませんよ。震度６でも、７でも、壊れん家をつくってやってきますと。見本をつくってきます。そしたら、あとから注文が来るかもしれませんから、準備して待っとってくださいと。そうやって人間は使命を獲得するんですよ。そうやって人間は世界に羽ばたくんですよ。今、世界に起こってる出来事から、自分の仕事をつかみ取らないかんですよ。**

**そういう意思がないということは、建築に携わる人間としては魂が死んでますよ。人間としての共感がないですよ。他の苦しみをわが苦しみとする心が死んでますよ。頭で仕事をしてますよ。心が死んでますよ。だから、心遣いが仕事の中に出てこないんですよ。自分のつくった家で、もし事故があったらどうしようか。そう思ったら、ちょっとでも完璧な、ちょっとでも隙のないね、素晴らしい住宅をつくろうという気構えになりますよ。自分が使っておるね、下請けの労働者の方がちょっと手を抜いたことをしておったら、すぐそれに気が付いてね、それをやり直させるとかですね、そういう細心の注意を払って仕事をし始めますよ。そしたら、クレームはどんどん減りますよ。心遣いがないから、クレームは出てくるんですよ。もちろん、クレームがゼロの仕事はありません。どんな仕事でもね、クレームは必ずあります。クレームというのがですね、全然ないような仕事はありません。常にそのクレームに対してね、どう対応するかということは考えてないといけません。だけども、できるだけクレームを少なくすることはできます。それは心遣いですよ、やっぱり。**

**その心遣いの一端としてね、世界に起こった出来事に心が痛むというね、そういうことでなかったらいかん。自分の関係することやったら、俺が出ていったら、こんなことはなくなるのにな。なんとかしたいな。なんとかしてあげたいな。そういうこの情がね、湧いてくる。そういう人間になって初めて建築の仕事に携わっておる人間に魂が入り、心がある仕事ができるようになると思います。社長さんもさっきおっしゃったように、建築という仕事は本当に人の命が懸かった、また人の人生が懸かった、そういうこの仕事ですからね、家を建てるなんていうことは一生にいっぺんですよ、だいたいがね。そういうことに関わるんですからね。その人の人生最高の喜びに自分が関わるんですよ。それを最大の悲しみにしてしまってどうするんだ。何かあって、その家に何か問題が、欠陥があった結果、その家の人がけがをするとか、命を落とすとかということになってしまったら、これはもう本当にその仕事はあれですよね。業務上過失致死になってしまいますよ、これはね。本当にすごい責任の重い仕事だっていうことをね、やっぱりこれは考えてないといかん。しかも、一生一回の人間の幸せに関わる仕事だ。これ以上素晴らしい仕事はない。**

**テレビは何回も買い換え買えたりする。買い換えたりするかもしれません。家を建てるのは、そう何回も建てることはありませんからね。私なんかでも、まだ親につくってもらったっちゅうか、親が住んどった家に住んどるので、まだ自分の家は建ててないんですもんね。死ぬまでにいったい俺の家は建てられるんかなと思えるようなね、感じなんですから。一生自分の家、建てんで死んでしまう人もおりますよね。その中で俺の家を建てるという人は、相当なこれは人生の喜びとね、本当にこの最高の幸せをそのとき感じながら、家をつくるんだと思うんですよ。その家に欠陥があったら、もう本当にもう泣くに泣けんというかね、ものすごいこの悔いの残るね、ことになりますよ。もう二度とあんな建築会社に頼まんぞと思いますよ。それが口コミで広がったら、本当に恐ろしいこと。一瞬にして会社はつぶれますよ。口コミは恐ろしいですよ。どんなに宣伝しても、口コミには勝てませんからね。それだけの、やっぱり細心のこの心遣いをね、注意じゃない、相手に対する心遣いの問題なんですよね。相手の人生を考え、相手の幸せを考え、相手の命を考え、その家の人がけがせんように、その家に住んで最高の幸せを味わってもらえるように、細心の注意を払って仕事をしよう。それが建築業に携わる人間の愛ですよ。**

**ぜひ家の問題でね、全世界に不幸なことがあったら、ぜひ心を痛めてください。でなかったら、建築の仕事に携わっとる人間としては不適格です、これはもう完全に。即刻、会社を辞めてください。**

**家の問題で命に関わるような大きな事件が世界にあったならば、自分の心を痛めなければ、それはプロではありません。とにかく心遣いです。司会をする場合でも、何かしら、どんな小さな仕事をする場合でも、そこに心遣いが必要です。みんなのことを考える。そういうね、精神を短い言葉にして、One for All、All for Oneとこう言うわけですよね。それはこの人間が仕事をし、生きる場合の心遣いということをそういう言葉にして表現しておるわけであります。**

**ちょっと前置きが長くなりましたけど、とにかく今、激動の時代なんですよね。この激動の時代というのは、いったいどうして起こったのかと。これはもうだいたい1980年ぐらいからね、その激動期に世界が入りました。なんであらゆる領域で原理的変革が求められるという、この激しい変化が求められるということになってきたのか。これは原因としては２つ理由があってですね、全世界がこの西洋の時代から東洋の時代へと大きく文明の中心を移し替えようとしておる。これまでは西洋が発展して、全世界を支えてきた。これからは、アジアが燃える。これからアジアが発展し、世界を支えるんだ。これまでは、あらゆる領域において、欧米が世界のリーダーだった。だけど、これからは、あらゆる領域において、アジアが世界のリーダーになるんだ。中国には、表面的には13億、実質的には15億を超える人民がいる。またインドにも15億を超える人民がいる。合わせて30億、アジアには世界の人口の約60％がおるんだ。この30億を超えるですね、この人間がこれから爆発的な成長を遂げてですね、そしてこの爆発的な発展をこれから実現していく。世界はアジアの発展をエネルギーにして、これから次のより高度な文明の段階に入っていくんだと。**

**だから、今、欧米のね、欧米の主立った研究所は何を研究してるのか。それは、アジア人の思考であります。アジア人が望むもの、アジア人が好むもの、アジア人が使いやすいものをつくらなければ売れへん。欧米人の体格に合わせたものをつくったんでは、アジアでは使いづらい。アジア人の体格に合わせる。アジア人のこの性格に合わせる。アジア人のこの意識に合わせたものをつくらなければ、競争で勝てない。もう欧米の成長率はゼロ、あるいはマイナスですよ。だけど、アジアは10％内外の急成長を遂げておる。完全にヨーロッパは止まった。アジアはこれからもっともっと燃える。アジア人が買うものをつくらなければ、欧米人は生きていけない。それほどの大激動がね、これから生じるわけであります。われわれ、もっともっと住宅においてもね、アジアを研究して、中国に売らなければならない。ベトナムに売らなければならない。タイや東南アジアに売らなければならない。インドにも売らなければならない。無限の市場が広がってます。世界一の高度な建築能力と建築技術を持ってですね、アジアに貢献しなければなりません。また成長の止まった欧米のですね、この住宅をはるかに超える品質の高い住宅を欧米人にも提供し、教えなければなりません。**

**これ、全世界的にいってアジアが魅力になってくるんですよね。これまでは日本人も欧米の建築を取り入れて、欧米の建築のこの新鮮な魅力に酔ってきました。だが、これからは、欧米人がアジアの建築の新鮮な魅力に酔うときがくるんですよ。逆転するんですよ。それが全世界から、西洋の時代から東洋の時代へと文明の中心が移っていくということの内容ですよ。アサヒグローバルが、これから200年存続するならば、確実にアジアの建築を原理にした品質を欧米人に売らなきゃならんときがきます。とにかくこの激動の原因の一つはですね、この西洋の時代から東洋の時代へと、世界の文明の中心が激しく今、変わりつつあると。そういうことであります。だから、今、世界に起こってるすべての出来事は、西洋的価値観の崩壊、西洋的世界観の崩壊、そういう言葉でですね、表現することができます。**

**もう１つのこの大きな変動の原因はですね、そういう外部的な要因じゃなくって、内部的な精神原理的な大変革が起こっておるっちゅうことであります。それは、これまではですね、理性を原理にして人類は生きてきた。近代という時代がですね、まさにそういう時代である。理性を原理にした近代という時代からですね、これから人類は感性を原理にした、次の新しい時代をつくっていかなければならない。理性の時代から感性の時代へ、近代から次の新しい時代へ、そういうこの精神原理論の大転換もね、これから進んでいくんだ。理屈じゃない、心が欲しい。西洋人がつくった理屈によって、理屈で生きとったらいいという時代からですね、心が大事や、感性が大事や、心が欲しいという時代に、これから全世界は変わっていくわけですよ。それを今の若者は、理屈じゃない、心が欲しいと言ってるんですよ。とにかく外面的な、その外側の、外の世界においては、西洋の時代から東洋の時代へ。内面的な精神原理においては理性から感性へ。そういう動きの中で、近代から次の新しい時代へと、今、世界全体がこの移行しようとしている。そういうプロセスにあってですね、世界はまさに内面的にも、またこの外側の世界においても激動というね、そういう状況にあるわけであります。**

**であるから、あらゆる領域において、原理的な大変革が要求されておる。なんで小泉改革がうまくいかんのか。あれは改革だからですよ。今、改革なんて求めません。今、改革なんて求めてません。今、あらゆることに必要なのは、原理付け、変革なんですよ。原理から変えていかな、表面的な創意工夫やね、改良、改革なんて、そんな小手先のもので動くような時代じゃない。原理的変革が求められてるんだ。だから、小泉さん、どんなことをやっても駄目なの。結果が出ない。こういうふうなですね、激動の中でね、今、世界文明の中心というものが日本の真上にあるんです。今、世界の中心を担ってるのは日本人なんです。そういう自覚が全然ですね、肝心の日本人にないんですね。まだアメリカが世界一の超大国でね、アメリカにまだ世界文明の中心があって、まだアメリカが中心やと思ってしまってるんですよね。なんと情けないことか。もうアメリカはすでに過去の国家なんだ。もう今は世界からばかにされてる国家なんだ。**

**今度のイラクの戦争にしてもね、アメリカ国民すら、アメリカの政府を見放したんだ。アメリカ国民の50％以上は、あのイラクへの戦争に対して反対だった。イギリス国民の80％は、ブレアさんに反対だったんだ。ただアメリカもイギリスも、エネルギーの問題を中心にして、国益のために無理にあの戦争をやってしまったんだ。このアメリカのですね、わがままな独善性が今、全世界から非難されておる。もはやアメリカはかつてのように、全世界から信頼され、尊敬され、憧れられる国家ではなくなってしまった。いまや批判される国家だ。国民からすら批判されてるわけだ。もはやアメリカは、世界のリーダーではなくなった。アメリカの現在の考え方は、政府の考え方は、アメリカの考えはスタンダードだ。全世界はそれに合わさなければならない。そして、アメリカの考えをグローバルスタンダードだといって、全世界に押し付けようとしておる。この画一化政策がですね、時代によって批判されてるわけです。今は画一性の時代から個性の時代へと、あらゆるものが転換していかなければならない。その時代にまだアメリカは自己中心的な、自分の考えを世界に押し付けようとする、この画一化政策にですね、まだ浸ってしまっておる。もはや時代認識を誤ったと言わなければならない。**

**今日の話はね、この今の時代というものを生きるですね、皆さん方が大人として持っていなきゃならない自覚と見識をね、そういうこの話であります。皆さん方は社会人ですから、必ず何かしら見識というものを持って、あらゆることに携わり、判断しなければならない。また、お客さんと関わるときにもね、お客さんから信頼され、尊敬されるような社員として活動しようと思ったら、政治の話をしようと、経済の話をしようと、社会に起こるさまざまな出来事の話をしようと、その話の中に、皆さん方は俺の見識というものを持って、お客さんに話をして、そして、お客さんからアサヒグローバルの社員はすごい見識と高度な判断能力を持っておるといって尊敬されるようなね、そういうこの社員にならなければならない。でなければ、仕事は発展しませんよ。お客さんを感動させ、お客さんを感心させ、お客さんから尊敬されるような社員になって初めて立派な家が建てられます。そのために見識というものをちゃんと持ってもらいたいし、またこの時代を生きる人間としての本当の歴史観に目覚めた自覚というものをちゃんと持って仕事をしてもらいたい。これは職業人として、プロとして、当然なければならない、この仕事をしていく上でのね、重要な課題というか、武器なんですよね。**

**あらゆることに対して、いっぱしの見識を持っておると。単にお客さんの言うたことにそうですねって、そんなこびへつらうようなね、そういうことも必要かもしれませんけど、それだけじゃなくってね、俺はこう思っておりますと言ってですね、なるほどとこう、お客さんをね、感服させるようなね、そんなことを言ったらね、これはもうその社員はものすごい信頼されますよね。それが仕事に莫大な、この効果をもたらすんですよ。そういうふうにして、自分のファンをつくっていくんですよ。そのために、あらゆることに対するいっぱしの見識というものをね、持って、この生きてもらいたい。その参考のためにね、話を聞いておいてもらいたい。決して私の申し上げてることが正しいとかね、私が申し上げてることが絶対だというような、そんなことはありません。ただ皆さん方が自分の見識というものをつくる場合にですね、この私の考えを参考にして、それに反対したり、それを批判したり、またそれに感動して、それを受け入れる。いろんな反応をしながらね、自分の見識というものをね、つくって、俺はこうやというものを持っといてもらいたい。いろんな人のね、意見をこの聞きながらね、それに反対したり、賛成したりしながら、自分というものがだんだんとこう、揺れ動きながら、だんだん固まっていくんですよ。だから、ぜひこの参考のために真剣に聞いとってもらいたい。**

**決して私の言ったことが正しいと思う必要はない。これは参考意見ですから、皆さんにとっては。だけど、私は私なりに自信を持って言いますよ。これは、私は学問をしてますから、私が私の言葉として出る限りは、これは学問であって、誰もがそうだと認めなければならないという根拠があって言ってることですからね。だから、私は自信を持って言います。だけども、だけど、それは皆さん方がうのみにする必要はありません。それは皆さん方がご自身の体験、経験と突き合わせながら、それを参考にして、自分自身の考えをつくってもらったらいい。そして、その考えを、またこれからもですね、いろんな人の話を聞きながら、成長させていってもらったらいいんです。あくまでもこれは参考の話です。だけど、私には自信があります。だから聞いてもらえるんですよ。自信のないことは言えませんからね。だから、私は自信を持って言います。だけど、皆さん方は参考として聞いてください。**

**とにかくこの激動の原因というのは２つあって、そして、そういうこの西洋の時代から東洋の時代へ、理性の時代から感性の時代へと、全世界が大きく原理的にこの変わろうとしておるね、そういう状況の中で、今、世界文明の中心は日本の真上にあります。どうして今、日本の真上に世界文明があるというふうに言えるのか。それは、この歴史の流れを見ればね、現在のこの人類の文明の出発点は、アフリカ中部の大地溝帯といわれるところから生まれてきました。だけど、これは残念ながら、現在のこの歴史学の一般的な見解に基づく考え方だけにすぎません。世の中には、今から１万5,000年、２万年、３万年を前に、もっと素晴らしい文明があったという証拠はいっぱい出てきております。だから、現在の世界のね、この学会における歴史に対する考え方が最終的なものであるかどうかは、これはまだわかりません。だけども、今、全世界の教科書に書いてある、その歴史の考え方がそうならばね、現在の、現在のわれわれの文明の出発点は、確実にアフリカ中部の大地溝帯から始まりました。それ以前に大文明があったとしても、それは過去のことです。今のわれわれの文明はどこから始まったのかといったら、これは確実にアフリカ地方の大地溝帯というね、そういうところから今の人類の文明は始まりました。そして、やがてその文明はアフリカの北部のエジプトに行き、そこからメソポタミア地方に行き、そして、メソポタミアから地中海、ヨーロッパ、イギリス、アメリカというふうに、この世界文明の中心を担う風土は変わってきました。**

**そして、今、そのアメリカが世界から批判され、そして、この信頼と尊敬を失いつつある状況であります。次、誰がアメリカに代わって、世界をより素晴らしい未来へと導くリーダーシップを取るのか。今のところ、日本しかありません。世界は西洋から東洋へと、その文明の中心を移し替えておる。これからはアジアが燃える。だけど、中国やインドはまだまだ、これからのですね、この国家であって、今の中国の人々の能力や人間性は、決して世界から尊敬されるに値するものではありません。まだまだ中国の現状は、守銭奴のごときですね、この汚い、非常にこの言ってみれば粗雑なですね、そういうこの精神に基づいて、今は活動がなされておりますし、まだ中国はアジアの魂に目覚めていません。彼らはまだまだ欧米の科学を取り入れることに躍起であります。だけど、一応それが終わるならばね、世界文明の中心はやがて中国にいきます。そして、その次にはインドにいきます。そういう流れの中でアジアの時代が確立されるわけであります。だけども、中国の方々がですね、世界文明の中心を担い得る能力と人間性を備えるまでは、日本が世界の文明を預かって、その世界の文明のこの水準の維持をね、して、さらにそれを発展させるということをしておかなければなりません。**

**中国が本格的に世界を担って、世界文明に貢献することができるような、そういう能力と人間性を備えるまでが日本の世紀であり、日本の時代であります。まだこれから最低限度、150年から200年は最低限度かかるわけだ。その間が日本の時代です。今、世界は日本の金の力で生きております。アメリカの経済も、アメリカ人自身の経済力でアメリカは生きておるのではありません。日本人がアメリカの公債、国債を買ってあげてるから、ようやく持っておる経済であります。ドルの価値はいまや全世界的に急速に下落しております。そして、アメリカはもうすでに頂点を済んだ国家です。アメリカの頂点とはいつか。これは1975年、もうずっと昔ですよ。1975年、今ここにいらっしゃる若い方々はまだ生まれてないぐらいのね、1975年、それがアメリカの頂点でした。1975年とはなんなのか。それはアメリカがベトナムに戦争で負けたときです。1975年までは明らかにアメリカはこの全世界の警察官といわれてね、アメリカは一国の政治力と経済力と軍事力でなんでもできました。だけども、1975年、アメリカがベトナムに負けてからは、アメリカ一国の力では何事もなし得ない。それほどまでに経済的に困窮しました。1975年の直後、アメリカはアメリカの基幹産業の一つである自動車産業が倒産の危機に瀕するような、大きなリセッションを経験しました。そのことによって、アメリカは金本位制を離れてね、貨幣を金と交換するということを拒否しなければならない。そうしないと、アメリカの国がつぶれるというね、そういうこの危機に直面して、金本位制から離れてですね、金との互換性をなくしたドルが増刷されるようになってきました。明らかに国力はそれを頂点として急速に衰退したわけであります。**

**そして、アジアの時代はそこから始まった。今でもね、ベトナムに行かれればね、多分、感じると思うんですけど、町にはね、このストリートチルドレンといって、日本人が行けば、何か物を売り付けに来てね、金、金、金といって、とにかく物を買ってもらって自分の小遣いにするような、そういう子どもたちがいっぱいおりますよ。だけども、大人たちは違う。ベトナムの大人たちは違う。彼らはものすごく大きなアジア人の誇りを持っておる。俺たちは世界でただ一国、ただ一人、アメリカに勝った国なんだと。その誇りとね、自信がある。だから、アジアのこのなんていうか、誇りというか、ベトナム人はね、貧しいけれども、卑しくはない。そういうこの人格を持ってますよ。貧しくとも卑しからず。決してこびへつらわない。俺たちはアメリカに勝った国なんだ。世界でただ一人、アメリカに勝った国なんだ。卑しくないというね、そういうこのきりっとした、澄んだ人間性があります。その意味においても、アジアの時代というのは、大きな歴史の流れから言えばね、1975年から確実に始まったんですよ。それは今だから言えるんですけどね、そのときはまだそんなことは誰も言ってませんでしたけどね。今から振り返ればね、ああ、あのときが歴史の大きな曲がり角だった。あれが境目だとね、今なら言える。**

**そこからアジアの時代が始まった。そして、アジアは日本から始まるんだ。日本から韓国、中国、インドというようにね、ずっとこう流れていく。そういう流れだ。今、確実にね、世界文明の中心は日本の真上にある。だから、日本人は、全世界に金を貸しておる、世界最大の債権国なんだ。アメリカは世界最大の債務国で借金が多い国だ。日本は全世界に金を貸して、貸して、貸しまくっとって、相手が返せなくなったら、もう返さんでもよろしいって、そんなこの太っ腹なことも言える国家なんだ。こんな国は世界のどこにもない。世界は今、日本の金で生きてるんだ。それほどのですね、素晴らしい力を持った民族なんですよ。べつに金があることが立派じゃないけどね、だけども、やっぱり生きるためには金が必要ですから、まずその経済力の支え、経済力という、このファンダメンタルにおいてですね、日本人は確かに世界を支えてるんだという自覚はね、われわれは失ってはなりません。だからこそ、もっと自信を持ってものを言わなければならない。われわれの判断が正しいんだと思って、この主張するだけのですね、それだけの根拠をこの土台として持っておるわけです。**

**今、確実にこの日本の真上に世界文明の中心がある。そして、今、世界はですね、近代から次の新しい時代へと移行するというね、そういうこの過渡期にある。近代から次の新しい時代へと移行する過渡期というのは、これは人類史上、第３の過渡期である。人類は過去２回の大きな過渡期を経験してきておる。第１回目の過渡期は、古代から中世への過渡期であるギリシャ・ローマ。第２回目は、中世と近代との過渡期であるルネサンス。そして今、人類は近代から次の新しい時代の過渡期に入っておる。このときに今、世界文明の中心は日本の真上にやってきておるんだ。ということは、日本人は、この世界史上、第３の過渡期を担って、この人類のために活躍しなければならない、かときっちゃんなんですね。食べておいしい、カトキチの冷凍さぬきうどんであります。この第３の過渡期を担ってね、かつてのギリシャ人のように、またかつてのルネサンス人のようにね、世界に冠たる素晴らしい大文明をつくって、全世界をあっと言わせるね、全世界がアッと驚く為五郎でね、アッと驚くというぐらいのですね、素晴らしい文明をつくってですね、そして、全世界の人類の幸せのために貢献しなきゃならん。そういうときを今、日本人は迎えてるんですよ。**

**誰もそのことをね、わかろうとしてない、わかろうとしてないのか、知らんのか、政治家も経済人もそのことを無自覚ですね。これから日本人は、第２のギリシャ人になり、第２のルネサンス人になって、絢爛豪華な、世界に冠たる、世界を驚かせるような、素晴らしい文明を築かなければならないんだ。**

**そして、それをすることができる確かな能力を日本人は伝統文化の中にちゃんと蓄えておる。そのことすら、日本人は知らないんですよね。日本の伝統がいかにこれからの人類にとって、この理想となり、目標となり得るものなのかっちゅうことすら、日本人は目覚めていない。残念ながら、第２時世界大戦、敗戦によって歴史が寸断された。終戦までに持っておった日本人の民族の誇りは、戦後の教育で木っ端みじんに打ち砕かれて、いまや日本人とは侵略者であり、日本人とはエコノミックアニマルだというようなね、そういうこの情けない、この汚名をですね、着せられた、そういうこの状態で今、日本人は学校教育を受けさせられておる。日本人の全世界に誇れる伝統の輝きは、まったく教育の中から消えてしまった。だから、日本人は民族としての誇りを持っていない。だから、多くの若者は、そんな教育を受けてきたが故にね、残念ながら愛国心を持っていない。愛国心を持てるような教育をしてもらってなかった。だけども、それを今の大人たちはね、今の若者は愛国心がない。国家の祭日においても、どこの家も国旗を立てない。国家を歌うことを快しとしない。情けないといって、今の大人たちは、今の若者を非難してるんですね。**

**だけども、これはとんでもない大間違いだ。今の若者は、決して愛国心をなくしたんじゃない。彼らは愛国心を越えたんだ。彼らは国境を越えたんだ。彼らは歴史の力によって、愛国心を越え、国境を越えて、いまや国を越えた人類愛に生きようとしておる。それが今の若者の心情である。かつて文豪のゲーテはですね、愛国心がある限り、世界から戦争がなくならないと言った。だけど、いまや日本人は、アメリカに代わって全世界の政治と経済と社会と文化に責任を持たなければならない国家にこれからなろうとしておる。であるが故に、いつまでもアメリカのように、国益を考え、愛国心を持って生きておったのでは、世界のリーダーであり得ない。であるが故に、今、日本人の若者は愛国心を越えたんだ。彼らは愛国心を忘れたんじゃない。愛国心を捨てたんじゃない。彼らは愛国心を越えたんだ。国境を越えたんだ。人類愛に生きようとしてるんだ。それが今の若者の心の中にある偽らざる心情である。愛国心にいつまでも拘泥することを彼らはよしとしない。それだけの大きなですね、生き方ができる、そういうこの準備というかね、そういうものをですね、今、日本人の若者はしようとしておる。このことを見てもね、愛国心にこだわり続けておるアメリカに代わって、日本人はこれからの世界の指導者としてのですね、この空洞を取り除くべきね、そういうこの前提条件というか、資格を持ち始めておると言って過言ではありません。**

**とにかく今、日本の真上に世界文明の中心がある。今、全世界は、人類史上、第３の過渡期を迎えておる。この第３の過渡期を迎えておる、この時代に、全世界は西洋の時代からアジアの時代へと、その文明の中心を移行させようとしておる。そして、このときに、日本の真上に世界文明の中心がある。だからこそ、日本人が西洋から東洋への文明の移行を責任を持って実現しなければならない。そして、今、世界は近代から次の新しい時代へと移行しようとしてるんだから、それを責任を持って日本人が、理性の時代である近代を終わらせて、そして、新しい時代である感性の時代を呼び起こすという活動をわれわれが責任を持って、人類のためにしていかなければならないんだ。これ以上ですね、理性の時代を続けておったらどうなるか。理性の時代を経過することによって、近代を経過することによって、今、人類にどういうこの問題があるのか。それは自然破壊、環境破壊、人間性の破壊。それで、人間性の破壊の中には何があるのか。人間性が破壊され、心が損失されたが故に、人類は離婚の激増に悩み、幼児の虐待に悩み、違いを理由に殺し合うという戦争が行われてしまっておる。この理性故につくられた、この野蛮な悲しい、悲惨な出来事を越えようと思ったならば、われわれはいつまでも理性を原理にして生きてはならない。はっきりとわれわれは、人間の本質は理性ではない。人間の本質は理性じゃない。人間の本質は心だ。われわれの本質は心だ。人間は理性を満たすものを求めておるんじゃない。人間が究極に求めるものは、心を満たすもんだ。そのことを言わなければならない時代になってきたんだ。**

**心の民族、感性民族とは日本だ。今、心は日本にしかないと。中国にはない。インドにはない。アメリカにもない。ヨーロッパにもない。今、心の文化は日本にしかないんだ。日本人が伝統的につくってきた文化こそ、まさに心の文化だ。日本文明の、日本文化の象徴である短歌。短歌の精神を一言で言った言葉がね、『古今和歌集』の冒頭の書き出しの言葉にある。それはどういう言葉かといったら、やまと歌というのは短歌のことですね。和歌のことですね。「やまと歌は、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける」。日本民族の文化は人の心を種としているんだ。心の文化は日本の文化だ。日本にしか心はないんだ。本当の人間らしい心は日本にしかないんだ。日本には世界の宗教がある。誰も殺し合っていない。これがこれから人類が目指す文化なんだ。日本には全世界の食事がある。日本に来れば、全世界の食卓が味わえる。ちょっと繁華街に出て道路を歩けば、イタリア料理も、フランス料理も、スペイン料理も、タイ料理も、インド料理も、全世界の料理が日本にはある。日本には世界のファッションがある。誰もけんかしていない。全部が共存しておる。こんな文化は日本にしかない。これが世界の理想なんだ。世界がこれから理想とする文化の原型を日本人は伝統的につくってきたんだ。そのことを以ってして、これからの時代は日本人が背負っていかな、なんともならん。今、日本の上に世界文明の中心があるんだ。ぜひ、その自覚を持ってね、われわれはこれからどう生きるべきかを考えなければならない。というところで、一応、半になりましたので、休憩に入りたいと思います。**

**（休憩）**

**芳村：それでは、続きの話をさせていただきたいと思います。そこでですね、この第３の過渡期を担って、このアメリカに代わって世界のために、世界の人類のために、人類のより幸せのためにですね、この活躍しなければならない日本人が、これからいったいどういうこの自覚を持ってですね、生きていかなければならないのか。そういうこの話になるわけですね。この第３の過渡期を担って、日本人が世界のためにアメリカに代わって何をするのか。これを知ろうと思ったならばですね、先ほど申し上げたように、これまで人類は過去２回の大きな過渡期を経験してきておるということを、考えなければなりません。そこで、過去２回の人類史上の大きな過渡期を担った民族たちが、その時代にどんなことをしたのか。それを振り返ることによってですね、これから第３の過渡期というこの時間の中で、何を日本人は世界のためにしなきゃならんのかということが見えてくるわけであります。そのように考えていくとですね、まず、その古代と中世との間の過渡期を担ったギリシャとはなんだったのか。そこから、考えるわけですね。**

**古代文明というものは、確かにこの今の中東地方、あのチグリス、ユーフラテス川を囲んだ、あの肥沃な大地でですね、展開された文明が古代文明、石の文化であります。だけども、あのバビロニア地方において展開された、この古代文明というのはですね、この石の文化というものがどんどん量的に拡大していって、広がっていったという、そういう発展の段階であった。だけども、このギリシャ時代に入るとですね、その石の文化というものがどう変わったかといったらですね、量的拡大という、そういうこの段階が終わって、そして、石の文化がその質において向上させて、向上していくという、そういう段階にこの古代文明は入るわけですね。そして、このギリシャ人のやった仕事というのは、石の文化、石というこの素材を以ってしては、石の文化を以ってしては、もうこれ以上、素晴らしい文化はつくれませんというところまで持っていったのがギリシャ人の仕事であった。すなわち、石の文化を以ってしては、もうこれ以上、素晴らしいものはつくれませんというところまでギリシャ人たちが持っていったから、だから、石の文化は終わったんだ。ようやく終わることができたんだ。そのことによって、古代は終わったんだ。そして、石の文化が終わったから、そして、石の文化を以ってしては、これ以上、石の文化を以ってしては、もうこれ以上、素晴らしい文明は、文化はつくれませんというところへ持っていったから、だから、次の新しい原理に基づくですね、時代、中世が始まることができたんだというふうにですね、考えなければならない。**

**そういうふうに考えていくと、この過渡期という時代をね、担う民族の仕事の第１番目はなんなのか。それは、その時代の文明をその質において完成させて終わらせるというところにですね、過渡期を担う民族の第１番目の仕事があるというふうに言わなければならない。ギリシャ人たちは、石の文化をその質において完成させて終わらせた民族なんだ。文明というのは、もうこれ以上、素晴らしいものはつくれませんというところまで持っていかないと、その文明は終わらないし、終われない。だから、過渡期を担う民族は、その時代を終わらせなければならないから、だから、その時代に文明の原理を、その質において完成させて終わらせるという仕事が、過渡期を担う民族のまず第１番目の仕事だ。それを今の時代に当てはめればどうなるのかといったら、今、われわれが生きておるこの時代の文明は科学技術文明である。であるが故に、日本人が第３の過渡期を担って、世界のために活躍しようと思ったら、どういう仕事をセントバーナードかですね、どういう仕事をせんといかんかですね、どういう仕事をセントバーナードかというとですね、日本人は、この科学技術文明をその質において完成させて終わらせる。すなわち、科学技術文明を以ってしては、もうこれ以上、素晴らしい文明はつくれません、ありません。そこまで持っていくのが日本人の仕事だということがまずわかるわけであります。**

**なんで日本人にそんなことできるんや。それは日本という国家だけが、技術をもって国土となし、技術立国を標榜しておる唯一の国家である。この技術をもって国土となし、技術立国を標榜しておるこの日本という国家の上に、科学技術文明をその質において完成させて終わらさないかんという使命が舞い込んできてる。これは偶然ならんや。まさに絶妙なる天の配慮。人為的な作為でなし得る事柄ではない。まさに天の配慮としか言いようがない。それほどのグッドタイミング、絶妙なタイミングなんですね。技術をもって国土となす。その民族の上に、科学技術文明をその質において完成させて終わらせなきゃならんという使命が舞い込んできておる。これはまさに天命という以外にない。**

**だけど、ギリシャ人のやった仕事は、ただ古代文明をその質において終わらせる。質において完成して終わらせるという仕事をしただけではない。もう１つ、ギリシャ人がやった大仕事がある。それはなんなのかといったら、ギリシャ人たちは、古代を終わらせると同時に、古代を終わらせると同時に、古代に代わり得る、新しい時代を呼び起こすための原理を創造し、世界に発信した。これもやっぱり、過渡期を担う民族が、その次の担う民族のためにやっておかなければならない重要な仕事である。次の時代を呼び起こす新しい原理を創造して発信する。これも過渡期を担う民族はしなければならない。そう考えるならば、日本人は今、何をしなきゃならんのか。それは、近代を終わらせるだけじゃなくって、近代に代わる次の新しい時代を呼び起こすための原理を創造して、世界に発信するということをしておかなければならない。それをしておかなければ、中国の方々が、その新しい原理にのっとって、新しい時代をつくっていくという仕事をなし得ない。**

**とにかく過渡期を担う民族の仕事というものをですね、ギリシャという時代を振り返って考えるならば、何がわかるかといったら、過渡期を担う民族は、その時代の文明の原理をその質において完成させて、終わらせるということをしておかなければならないし、もう１つは、新しい時代を呼び起こす原理を創造して世界に発信する。この２つのことがですね、過渡期を担う民族の原理的な使命である。これを同様に中世と近代との間に横たわるルネサンスにおいて考えればどうなるか。中世は確かに宗教文化である。だけど、宗教文化、西洋においてはですね、キリスト教というものがどんどん、どんどん、世界に広がっていった。確かに中世1,000年間といわれるですね、紀元後３世紀から、紀元後13世紀まで、この中世1,000年間は、確かにキリスト教という文化が全世界に広がった時代である。だけども、610年、イスラム教はですね、このアラビア半島に出てきて、そして、そのイスラム教徒の抗争の中で、キリスト教が量的拡大して、量的に拡大して成長していくという段階がようやく食い止められて終わった。そこからですね、この宗教文化は量の発展の時代から、質的な向上の発展の段階に入る。**

**すなわち、13世紀から16世紀ぐらいまでの間の、このルネサンスの時期にどういうことが起こったのかといったらですね、宗教文化というものがその質において向上、発展し始めた。中世1,000年間のですね、紀元後３世紀から13世紀までの間というのはどういう状況だったのかといったら、キリスト教の教会なんていってもね、本当にもうね、物置小屋に十字架が立っておったりね、あるいは洞窟の中に教会があったりしてね、全然もうその宗教文化としての、この外面的な体裁というのは、ほとんど感じられないような状況だった。だけども、13世紀から16世紀の間にね、教会は素晴らしいこの体系性を持ったですね、ものすごい壮大な建築として、この文化的に発展することになったんですね。これには、このいろいろ理由があってね、この中世1,000年間における教会、このキリスト教の教えというのは、原始キリスト教の時代から、それから教父哲学といって、宣教師たちがキリスト教を世界に普及するためにさまざまにつくった経典のようなものがね、編さんされていくという、そういうこの段階を踏んで、キリスト教は発展するわけですけども、12世紀から13世紀にかけてですね、このキリスト教の神学というものが哲学化されてですね、スコラ哲学という、そういうこの学問になっていくわけであります。**

**それはヨーロッパに初めて大学ができましてね、世界で最初にできた大学というのは、イタリアにできたボローニャ大学という大学が世界最初の大学なんですね。それ以後、もう全ヨーロッパに急速にたくさんの大学がだあっとできていったんですけども、最初、大学っていうのは、このキリスト教神学を解釈したり、研究したりするということがもっぱらのこの勉強の内容でした。そのことによって、急速にですね、キリスト教の神学が哲学化されていきましてですね、哲学化されるということはどういうことなのかといったら、キリスト教の教えが体系性を持ってね、哲学的に体系になって表現された。そのキリスト教の神学が体系性を持って、体系的に表現されたことによって、その体系的な神学がキリスト教を表現する建築としてね、この表されたものが今のあの壮大な体系性を持った、このきらびやかな荘厳な教会の姿なんですよ。すなわち、あの教会というのは、キリスト教の神学が建築的に表現されたものなんですね。建築というのは思想の表現である。人間が何を望み、何を考えておるかと。それがあの教会の建築の構造に反映されておるわけです。**

**だから、皆さん方がこの関わっていらっしゃる建築も、今の時代の価値観と、今の時代の考え方と、今の時代の感じ方と、今の文化がこの建築の構造と、そして、その機能の中に込められてですね、そして、この形が決まっておるわけですね。形は内容の表現である。内容が決まらなければ、形は決まらない。内容が変われば、形は変わる。だから、全世界いろんな建築がありますよね。あれは、そこに住む、その人間たちの考え方なり、感じ方なり、価値観が違うから、ああいうさまざまな建築の形ができてくるわけであります。これから世界はグローバル化している。グローバル化していく。まさに、アサヒグローバルの時代なんですね。世界はグローバル化していく。そして、全世界的な規模で、最高の、最高品質の建築が要求されてくるというね、そういう時代に入ります。地球は一つという時代に入ります。全人類が共通する文明、文化を持って、互いに協力し合いながら、力を合わせて生きていく時代に入る。建築も全世界的にグローバル化して、その質がどんどん互いに教え合いながらね、この向上していくと、そういう段階に入るわけですね。**

**とにかくこのルネサンスの時期というのはですね、宗教文化がその質において向上し、発展し始めてですね、そして、宗教文化としては、もうこれ以上、素晴らしい文化はつくれませんというところまで持っていったのが、そのルネサンスの方々の努力であった。それを見てもですね、過渡期を担う民族がまず最初にしなければならない仕事は、その時代の文明を、その質において完成させて終わらせるという仕事なんだというふうに、この言わなければならない。だけど、ルネサンスの方々がやった仕事はそれだけではない。もう１つある。それは中世という宗教の時代を終わらせるだけではなくって、この宗教の時代である中世に代わり得る新しい時代を呼び起こすための原理を創造して、社会に発信した。じゃあ、それはどういう原理だったのかといったらですね、ああ、さっきギリシャ人がつくった新しい原理を言うの、忘れましたね。ギリシャ人たちが中世という時代、新しい時代を呼び起こすために発信した原理はなんだったのかといったら、それは真理は一つであって、本当のものは一つしかないというね、そういう原理をギリシャ人は発信しました。**

**それはどうなったのかといったらね、ギリシャ人たちが古代に代わる新しい時代を呼び起こすために世界に発信した原理が、真理は一つ。本当のものは一つしかないという、そういうこの原理、信念であったが故にね、突然、このユダヤ教に注目が集まったんですね。当時、ユダヤ教だけが一神教というね、その真理は一つだというこの信念とぴったり合った文化はユダヤ教しかなかった。そこで、ユダヤ教という、この民俗宗教が核になって、さまざまな他の民族の宗教を吸収しながらね、ユダヤ教がどんどん発展していって、やがてユダヤ教が核になって、キリスト教という世界宗教ができた。どうしてユダヤ教が世界宗教になり得たのか。それはユダヤ教がさまざまな民族の宗教を吸収しながら、発展していくことによって、さまざまな民族に受け入れられるようなね、そういうこの宗教の体質がつくられていって、そのことによって、できてきたキリスト教であるから、キリスト教は全世界に受け入れられるような、そういうこの内容を持つことができたんですね。そういうことによって、結果的に新しい時代は宗教の時代ということになってしまった。その宗教の時代が1,000年間続いて、そして、そのまず文明というのは量的に拡大していくと。そして、量的拡大が終わったところから、質の向上が始まる。**

**これはもうあらゆるものはそうです。建築でもね、まず建築がここにずっとこう、ある一定の品質のものが広がっていく。その飽和状態になると、量的に飽和状態になると、今度は質の成長が始まるという、そういう段階になるわけですね。昔、三種の神器なんて言われたですね、この洗濯機と冷蔵庫とテレビでもね、これも最初つくられた洗濯機、冷蔵庫、テレビが全国民にだあっと量的に広がっていって、それがある程度、飽和状態になると、洗濯機や冷蔵庫やテレビは質の向上の段階に入ってね、そして、この新しい発展を示すというのが、あらゆるものの、これは発展段階。文明もやっぱり、まずは量的に拡大していって、成長していって、量的拡大が終わったところから、質の向上が始まるって、そういう段階に入るわけですね。**

**中世という時代もやっぱり、1,000年間の間にキリスト教が全世界に広がっていくという、そういう流れができて、そして、そのイスラム教との抗争の中で量的発展が食い止められたところから、このキリスト教の質の向上のね、段階に入って、それが今度、ルネサンスという時代の中で展開されて、そして、そのキリスト教文化としては、宗教文化としては、もうこれ以上、素晴らしいこの宗教文化はつくれませんというところまで、ルネサンスの方々が持っていったから、だからようやく中世は終わることができて、そして、新しい時代が始まるという準備ができたんですね。そして、そのルネサンスの方々が、中世に代わり得る新しい時代を呼び起こすために、世界に発信した原理とはなんだったのか。それがこの人間の本質は理性であって、理性しか信頼できないというね、そういうこの原理を発信した。であるが故に、近代は理性の時代になってしまった。そういうこの過去２回のですね、過渡期を担った人々の仕事というのを考えると、われわれもそれに、この類する仕事をですね、これからやっていかないかんということになってくるわけですね。**

**そこで、先ほど申し上げたように、今、日本人がこの時代において、第３の過渡期を担ってしていかなければならない仕事とはなんなのか。まずは、近代科学技術文明をその質において完成させて、終わらせるという仕事をしなければならない。そして、２番目には、近代に代わり得る新しい時代を呼び起こすための原理を創造し、世界に発信する。この２つの仕事をすることが、日本人に、日本民族に課せられた世界史的使命であるということがね、この過去を振り返るとわかるわけであります。じゃあ、この近代科学技術文明をその質において完成させるとはどういう仕事の内容なのか。これはですね、今、われわれが持っておるこの科学技術文明という、この科学技術も、すごい素晴らしいもんだと思ってらっしゃる方がほとんどだと思うんですが、こんなものぐらいはね、屁でもないと言ったらおかしいですけども、こんなぐらいのものは、たいした科学じゃないんですよ。今の科学技術文明というのはね、科学技術というものが、全地球上に広がっていったという、科学技術文明の量的拡大という段階での発展が今、ようやく終わったっちゅうことなんですよ。これから科学技術文明は、これからその質において、向上、発展していって、もう科学技術文明を以ってしては、もうこれ以上、素晴らしい文明はつくれませんというところまで持っていくのがこれから仕事なの。それを担うのが日本人なの。**

**じゃあ、科学技術文明をその質において完成させて終わらせるという仕事はいったいどういう内容なのか。それは、科学技術文明が全地球上に広がっていくという、量的拡大のプロセスの中で、科学や科学技術が人類に及ぼした罪をどう償うかという、この仕事の内容がこれからのこの課題になってくるわけだ。じゃあ、科学の罪とはなんなのか。科学技術の罪とはなんなのか。それが自然破壊、環境破壊、人間性の破壊、核廃棄物、この４つがですね、科学の罪。科学技術文明が全地球上に拡大し、広がっていく過程において、人類に対して科学が犯した罪というふうにね、言うことができる。だけど、この科学の罪が罪として残っている限りは、科学技術文明はまだ完成された文明とはいえない。まだ半端な、未熟な文明である。であるが故に、われわれは日本人が中心になって、これから科学技術文明をその質において完成させて終わらせるという道筋をつくっていかなければならない。すなわち、科学の罪を償うという仕事をわれわれ、これから日本人がやっていかなければならないんだ。**

**ということは、その仕事の内容はなんなのか。それは、自然破壊、環境破壊に対してどう対応するか。また人間性の破壊というこの問題に対してどう対応するか。離婚の激増をどう食い止めるんだ。幼児の虐待をどういうふうにしたら食い止められるのか。そして、違いを理由に戦い、違いを理由に戦争をするという、この違うということが対立の原因になるという、この文化をどう乗り越えるのか。そして、核廃棄物、放射能の不安というものをどういうふうに人類は乗り越えるのか。**

**この４つがですね、日本人が是が非でも、人類のために成し遂げなければならない大仕事であります。その全部が日本人がやらんないかんのんですよ。それをやってしか、次の時代はやってこないんですよ。だけど、もうすでに環境破壊と自然破壊の問題は、もう80％から90％、日本は対応してしまいました。あと残ってるのは10％。もうちょっとなの。そのもうちょっとがね、胸突き八丁というね、大仕事なの。**

**この環境破壊と自然破壊という問題に対応する仕事というのは、全部で５項目あるんですね。どういうことかといったら、まずは環境破壊、自然破壊を克服しようと思ったらね、環境を破壊しない技術をつくらんといかん。環境を破壊しない技術、環境を守る技術、環境を補修する技術、環境を創造する技術、ここまではね、ほとんどもう対応ができてしまってる。**

**あと１つ、これは全産業の有機的リサイクルシステムの完成。これだけが全世界でまだまったく発想がない。計画がない。まだ全然、人類が気が付いてない、産業社会の新しい構造であります。この全産業の有機的リサイクルシステムの完成とはどういうことなのかといったら、産業界全体が体系化されていくんですね。そして、ある産業から廃棄される廃棄物が、次の産業の原料になり、またその産業から廃棄される破棄物が、次の産業の原料になるというふうにして、全産業社会が体系化され、有機的につながっていって、廃棄物をまったく出さないというね、そういう構造を持った産業社会ができること。これが環境破壊と自然破壊という問題に対して、完全に対応できたという状態なんですよ。**

**それがために、それをするために、今、世界はどういう価値観で動いておるかといったらね、今、世界は統合の時代である。あらゆるものを、個々のものを結び付けていくという時代に入ったんだ。それが故に環境問題においてもね、この全産業の有機的な結び付きというものが、これからつくられていくはずなんだけども、まだその発想が世界のどこにもない。誰もそんなことは言っていない。だけど、それをしないことにはね、絶対に環境問題と自然破壊の問題に対して、最終的な答えを出したとは言えません。それをすることなしには、科学技術文明はこの完成された文明にはならないということですね。今、環境問題はドイツがその最先端を走ってますけども、ドイツのですね、その環境問題に対する対応は、これはハードの部分での最高水準のものを持ってるんですけど、これから環境問題において望まれるのは、もっと微細なね、ケミカル的なね、化学的なですね、そういうこの能力を伴った、この対応がですね、これからのこの科学、自然破壊、環境破壊の問題にして要求されてくる課題であります。この面においては、この微細な分野に能力の特徴を持っておる日本人しかなし得ない、日本の独壇場に入ります。**

**そのことを通して初めてですね、この全産業が有機化されていって、有機的に体系化されていって、そして、この全産業の有機的リサイクルシステムが完成して、そして、この廃棄物を出さない。公害を出さない。資源の完全な有効利用というね、そういう化学がこれからつくられてくるわけであります。なんで日本人がね、それほどの、すなわち科学技術文明をその質において完成させて終わらせるという、この仕事がですね、どうして日本人の仕事であり、また日本人はどうしてそれができると断言できるのか。それは日本民族の特性がどこにあるかということを知れば、たちまちにそれはわかる話だと。日本民族は世界唯一、どういう素晴らしい特徴を持っておるか。それは、日本人は、あらゆるものを世界最高の完成度に仕上げてしまう。そこに日本民族の他の民族にはない独特のこの能力の特徴があります。日本人も他の民族と同じように、いろんなこのものをクリエイトすることもできます。だけども、日本人の特徴は、クリエイティブな能力にあるんじゃない。日本人の特徴は、最高の完成度に仕上げてしまうというところに、日本民族の独特の他の民族にはない特徴がある。**

**この能力によってですね、日本民族は近代科学技術文明をもうこれ以上、素晴らしい科学技術文明はないというところまで仕上げてしまえるというふうにですね、言うことができるし、その仕事が日本人以上にできる民族はどこにもいないんだから、これは日本人がやるっきゃないということになってくるわけですよ。**

**じゃあ、どうして日本人は、あらゆるものをですね、世界最高品質に、最も完成度の高いものに仕上げてしまうと言うことができるのか。インドでできた仏教すら、インドにおいてはもうすでにヒンズー教に吸収されてしまっておってですね、その発展は止まっておる。その仏教はやがて昔、中国に行った。中国でも発展したけど、いまやもうインド、中国でも仏教はほとんど、その発展は見られない。だけど、今の日本には、その仏教、インドでできて、そして、この中国で発展したその仏教が、今、日本の中で生活の中に息づいて、まだ発展をし続けておるようなね、そういうふうな状況にある。日本に仏教が入ってきて、鎌倉時代になってから、日本仏教というね、素晴らしいこの独特の仏教の姿がまた日本でつくられて、それがそのあと受け継いだ、いろんな方々によって、また発展、成長させられておる。**

**現在でも、仏教にはいろんなこのことを説く高僧がですね、いらっしゃってですね、そういう人たちの教訓、教えに基づいて、多くの経営者なり、多くの人間たちが救われて、そして、今、生活しておる。今、仏教は日本にしかない。日本にある仏教が世界最高水準の仏教なんだ。それほど日本人は、インドでできた仏教すら、その内容を高め、高め、高めて、深め、深め、深めて、仏教の最高水準のものを日本人はつくってしまった。**

**また中国でできた儒教、老荘思想にしてもですね、もう中国本国においては、ほとんど研究者は見られない。もう発展は確実に止まってしまっておる。だけど、日本においては、この儒教もですね、孔子や孟子やというふうな、古い儒教だけではなくって、朱子学や陽明学が日本で今もこの勉強されておって、そして、この王陽明の学説を座右の銘として経営してるというような、そういう経営者もいっぱいおるわけですね。いまや、中国でできた儒教すら、日本がその最高水準のこの教えを保っておる。**

**また中国でできた老荘思想、道教ですね。老荘思想というのは、無為自然の道といって、道の思想を説くものですけども、この老荘思想の道の思想が日本に入ってきて、そして、日本の神道という道の思想と合体して、そしていまや日本人の文化の根底をですね、この道の思想が握っておる。すなわち、花を生けることが華道になり、茶を飲むことが茶道になり、商売が商道になり、芸が芸道になり、剣が剣道になり、あらゆるものが道としてね、文化として、その発展、成長するという、そういう原理になっておる。まさに道の思想は、今、日本にしかない。世界のどこにもないんだ。それほどに完成度の高いですね、文化として日本人は道の思想を完成させてしまった。**

**さらに欧米人がつくった技術はどうか。欧米人がつくった技術も日本に入ってくると、まさにこの科学技術文明の最先端であるナノミクロンという単位での微細な単位の科学技術は、日本の独壇場であり、誰も右に出る者はいない。現在の文明の最先端の力である携帯電話もその８割の備品は日本製だ。日本製の部品を使わなければ、世界最高水準の携帯電話はできない。そんな時代なんだ。欧米人がつくった技術すら、もうすでに日本人はその最高水準のものを握ってるんだ。これが日本民族の他の民族にない独特の能力である。すなわち、あらゆるものを、その最高の完成度の高いものにね、仕上げてしまえるんだ。この力を以ってして、初めてですね、科学技術文明は、もうこれ以上、素晴らしい科学技術文明はないというところまで完成されるというね、そういう可能性をこのわれわれは持っておるというふうに言わなければならないわけであって、日本人以外にこの仕事に使命として携わることができる民族は、この地球にはいない。**

**このわれわれの血の中に流れておるね、この繊細な感性、いいかげんなこと、いいかげんさを許さないというね、この最も完成度の高い仕事をしていくというね、この能力をわれわれは自分の血の中に流れておるものとして目覚めなければならない。目覚めれば、それはできる。いいかげんさを許せないというね、そういう気持ちが日本人には、根底にはある。**

**これ以上はないというところまで持っていかんと、満足できんという、そういう精神が日本人にはあるんだ。なんで日本人は、世界の水準から見たらね、こんなに物質的に豊かな生活ができておるのに、なんでそこに満足感がないのか。それは日本人が内に秘めておる完成度の高さというのは、この程度ではないんだ。もっと上を目指してるんだ。だから、今のこの豊かさに満足できないんですね。今の給料の倍をもらって、初めて日本人は豊かさを感じるというね、そういうこの水準の可能性を持った民族なんだ。どの程度で満足するか。それはその人の持っておる潜在能力と関係するんだ。この程度で満足してるっちゅうことは、その程度の可能性しかない。だけど、日本人は平均的にいって、今のこの豊かさに満足していない。まだ中流だと言っておる。そして、日本人はもっと金が欲しい、もっと豊かな生活がしたい。**

**そういう願いをですね、ほとんどの人が持っておるんだ。これが民族の可能性を示しておる。だから、もっと素晴らしい文明がつくれるんだ。だけど、今の水準でも日本は世界最高水準なんだ。だけども、それに満足していない。であるが故にわれわれは科学技術文明を、その最も完成度の高い段階にまで、まだこれから成長させていく力を持っておるんだというふうにね、言うことができるわけであります。これが民族の可能性なんだ。**

**われわれが本当にこの日本民族独特の繊細な感性に自らが目覚めるならば、日本の、日本民族の血の中に流れるこの感性の繊細さに目覚めるならば、われわれはもっともっと素晴らしい仕事ができる。もっともっと完成度の高い仕事ができる。こんな半端な仕事の仕方でね、終われないというね、そういう能力が、皆さん方の命の中に宿ってるんだ。それが民族が伝統的につくってきた繊細な感性によって保証されておる。誰でも本気になったら、もっともっと、もっともっとすごい水準のね、仕事ができるんですよ。本気になったら。本気にならんから、この程度でええかっちゅうことになってるんですからね。本気になったら、こんなもんじゃない。それもみんな持ってるんですよ。そして、これからですね、われわれは、アメリカに代わって世界のこの指導者とならなければならないとはどういうことなのかといったら、それは全職業領域において日本人は、全職業領域において世界の頂点に立たなければならないんだ。建築の仕事をしておるならば、俺はこの建築の仕事で世界の頂点に立ったるんやと。世界の同業者は俺を目標に付いてくるんや。そういう時代をね、これからつくっていかなければならないんですよ。**

**日本の建築業が全世界の建築業をけん引する。その時代がやってきますよ、必ず。もうすでに日本には、世界一の品質を持ったものがいっぱいあるんですよ。新日鉄の鉄、ソニーの家電、あるいは、このキヤノンのカメラ、資生堂の化粧品、いろんな分野でですね、トヨタの車、とにかく世界最高品質の車はトヨタがつくってるんだ。やがてトヨタは世界の自動車市場を支配する。建築においても、日本の建築会社が世界を指導する時代がやってきますよ。誰がやるのかと。アサヒグローバルもその候補として立ち上がらなければならない。アサヒグローバルって名前自身がもう、そういう可能性を秘めてますからね。**

**アサヒ、これはまさに今、立ち上がろうとするね、旭日の太陽がアサヒだ。グローバルというのは、これは世界を意味するんですからね。日本は日出ずる国である。中国は日の没する国である。これは聖徳太子が言った言葉ですけどね。今まさに日本は、旭日に太陽として立ち上がってというか、成長していって、そして、世界を支配する、世界を指導するグローバルな力をね、保ち得る、そういうこの状況にこう向かっていくんですから、その名前を奇しくも持っておる会社というのはそう多くはないですよ。**

**そういう名前、どういう名前を付けるかもね、これはね、人智を越えたね、非常にね、不思議な縁があるんですよ、これは。自分に、自分の名前もね、これは偶然にお父さん、お母さんが、そういう名前を付けたんでしょうけどもね、いろいろ考えて付けた、その名前には、やっぱりね、ただ人間のこの智が働いてるだけじゃなくってね、やっぱりそこに何かしら、この天とのつながり、宇宙とのつながり、大宇宙との縁というものがね、働いてね、そういう名前を与えられたというね。その名前に込められた思いをね、自分が感じるとですね、自分の使命がわかってるというようなね、そのことによって姓名判断は為されるんだからね。姓名判断というのは、その名前に込められた運命を、宿命を自分が知ろうということですからね。どんなものでもね、プラスにも解釈できるしね、マイナスにも解釈できるんですよ。だから、プラスに解釈せんと損ですよ。その名前が持っておるプラスの可能性とはなんなのかを追求していけばね、自分の命の最高に生かされる道が見えてくるんですよ。そのために姓名判断はあるんです。そういう手相だとかね、四柱推命だとか、そういう人に見てもらって、なんか悪いこと言われてもうがっくりというのは、そんなことじゃ駄目なんですよね。どんなものでもね、マイナス面もあるけど、プラス面もある。半々なんです、可能性は。だから、その言われたことを意識しながら、それをいい方向に転換していくという力をね、本当は易、易学というのは、易の思想というのはそういうもんですからね。悪い宿命があっても、それをいい宿命に転換していく力を易は持っておるんですよ。いいほうに解釈しないと損なの。**

**人間はその力を持ってるんですよ。よく女性の方はですね、こんな女に誰がしたっちゅうて、変なのと結婚しちゃったから、私はこうなっちゃったのよって、そういうこの環境に支配されるようなね、そういう言葉が残ってますけども、それはその考えの浅いね、女性の言うことであって、いかなる環境も自分の人生にプラスになるように解釈していく力。これ、男もね、どんなこの嫌な、不幸な出来事が起こっても、それをも自分の成長のバネにしていくというね、あらゆる出来事を、あらゆる事実を、あらゆる現象を自分の人生にプラスになるように解釈し抜いていくという力がね、生きるということなんですよ。生かすっちゅうことなんですよ。あらゆる現象を自分の人生のプラスになるように生かしていく。それが人間が生きるという生き方なんですよ。これを俺にとって嫌なことやと思ったら、突然、不幸になりますからね。でも、どんな不幸なことでも、この現象は俺にとってはプラスになると思ったら、自分は頑張れるんですよ。幸せになるんですよ。解釈一つなの、人生は。**

**そして、あらゆる問題はね、あらゆるクレームはね、あらゆる悩みはね、全部、自分を成長させるために出てきてくれてるんですからね。問題と悩みがなかったら、成長はない。クレームが一つもないような会社は発展しませんよ。クレームがどんどん出てくる。どう改良したらよいのか。そこでどんどん、どんどん、変身して、発展していくんですね。クレームを恐れたらいかん。クレームを言われたときこそ喜んでね、社長さんに報告に行ってね、こんなクレームが出ましたと。わが社が発展するチャンスですなんていうようなことを言ってね、クレームを社長に報告に行ってね、共に頑張るというね、それぐらいのね、この大きなね、判断をしてね、会社はいろいろ問題を吸収しながらやっていかないけません。クレームが出たらいかんと思ったらいかん。クレームが出てくるのを待っとくぐらいやないといかん。どうしたらよいのか。さらに成長するチャンスがそこにあるんですからね。クレームが出てこなかったら、成長できませんよ。どう成長したらいいのか、わかりませんからね。クレームが出てくるから、どんどん発展するんですよ。そのクレームに応えて。失敗に応えて。**

**ピンチはチャンスという言葉もありますけどね、まさにピンチはチャンスなの。成長のチャンスなの。われわれはみんなね、問題がない、悩みがない生活がしたいと思ってんですよね。それは理性の奴隷となって、人間でなくなってしまった人間の言うことです。人間そのものは不完全ですからね、悩みがないとかね、問題がない人生なんてありようがないですよ。不完全なんですから。常に問題がある。常に悩みがあるんですよ。早く悩みがない、問題のない人生になりたい。そう思う人間は一生不幸です。絶対そんなことはないんですから。もしそうなったら、その人は問題があるのに見てない人です。問題はあるのに見てなければ、現実が見えてないんだから、あっという間に不幸になりますよ。一瞬、問題もない、悩みもない、なんて幸せだろうと思ってるかしれませんけど、発展しない、成長しないんですからね、一転、不幸になりますよ。結果は不幸な人生になりますよ。**

**経営者がね、問題が出てこないことを願い、経営者が問題のないことを願ったら、社員はクレームを隠しますよ。問題があって当然、クレームがあって当然。それをどんどん報告して、そして、俺はこのように成長しますと社長に報告する。それが伸びる会社ですよ。経営者は絶対に問題のないことを願ってはならない。問題の出てこないことを願ってはならない。それは会社を滅ぼす意識だ。理性的に完全性を要求する経営だ。人間を見ていない。人間皆、不完全だ。失敗して当然、問題があって当然、クレームがあって当然。だけど、開き直ったらいけません。人間は不完全だから、クレームがあって、失敗して、そんな当たり前やと。それはもう成長意欲のないね、落ちぶれる人間の言うことですよ。どんどん問題の波を乗り越えていくことが人生だ。経営とは問題を乗り越えることだ。問題を恐れては経営はできない。問題もない、悩みもない、そんな会社では経営者は成長しませんよ。問題があるから、クレームがあるから、悩みがあるから、成長できるんだ。経営能力を成長させようと思ったら、問題と悩みとクレームに応え続けていかなければならない。でなければ、経営者はしっかりしない、成長しない。そのことに社員の皆さんは協力せんないかんと。**

**どんどんクレームを社長に報告して、どんどん失敗を社長に報告して、どんどん問題を社長に報告して、共に成長していきましょうちゅうて、社長を励まさないかん。社長を成長させるのは社員の仕事ですからね。立派な社長にするためには、社員が頑張らないかん。社長さんは社員を成長させないかんけど、社員の仕事は社長を成長させることですからね。社長を成長させるためには、堂々と失敗を報告し、クレームを報告し、問題を報告せないかんのですよ。今日はこういう失敗をしましたけど、これからはこういうことのないように頑張ります。お互いにそれを認め合っていくことが、人間中心の組織であり、人間中心の経営です。人間は不完全なんですから。だけど、失敗したらええんや、失敗してもええんやと、開き直ったらいけませんよ。人間は不完全でありながらも、完璧を目指すのが人間ですからね。だけども、やはり失敗するんですよ。だから成長できるんですよ。**

**問題がない。悩みがない。それは現実が見えてないっちゅうことなの。だけど、ほとんどの人がね、理性の奴隷になって、人間でなくなってしまってますから、だから、理性的に考えて、問題がない、悩みがない状態が幸せな状態なんやと思ってしまってんですね。だけど、悩みがない、問題がないっちゅうことは、問題がないような現実はないんですから、問題がないっちゅうことは、現実が見えてないんだ。自分の足元が見えてないんだ。最近はよくね、癒やしのセラピーばやりでね、なんか悩みがあると、すぐ癒やしのセラピーなんかに行ったりして、完全に癒やされたりしてね、もう私には全然問題も悩みもありません。ハッピーですなんていうようなことを言ってる女性の方、いらっしゃるんですよね。奥さんがハッピーです言うとったらどうなってるのかといったらね、その家はね、奥さんはハッピーでもね、そのもとでご主人と子どもたちが、耐えに耐えて我慢してるんですよね。でなきゃ、ハッピーなんかでありようがないんだ。結局、ハッピーっちゅうことは、他人を不幸に、他人の不幸を足場にして、自分が幸せになってるだけの話なの。主人と子どもたちは耐えに耐えてるという苦しみを見ていない、感じていない。それがハッピーっちゅうことですよ。だから、そんなことをやっとったらね、どっかで家庭には大問題が生じますよ。一瞬、幸せのように見えてもね、易きに流れる、安逸をむさぼる、怠け者の幸せだ。本当の幸せというのは、問題と悩みを乗り越える力を成長させていくことによってしかつかめないんですよ。人間的な本当の幸せは、問題と悩みを乗り越えていく力を成長させる以外に本当の幸せを自分がつかむ道はない。**

**とにかくこれから日本はですね、第３の過渡期を担って、世界の指導者としてのそういう生き方をですね、全国民がし始めなければならない。その意味においてですね、今、自分が与えられておる仕事を最高の完成度を持ったね、仕事の水準にしていこうという、そういうこの意識でですね、努力しなきゃなりません。だけど、最高の完成度を目指すっちゅうことは、そこに失敗がなかったら、さらに成長はないんですからね。失敗があり、また他人から注意され、クレームがあるから、よし、それを乗り越えていこうというね、成長があるのであってですね、失敗をしない、安全策を採り始めたら、もうその仕事は成長しなくなりますよ。社長さんから、とやかく文句を言われたくない。失敗しないように、安全な仕事をしようと思ったら、どんどん仕事は消極的になりますからね。だけど、それでは自分も成長できません。仕事も成長しません。会社も発展しません。今、自分の持っておる力でできることしかしようとしない。今、自分の持っている力で、できんことはできませんといって断ってしまう。これ、安全策を講じることになりますから、そこには成長はありません。**

**今、自分のできないことをできるようにしようと思ったら、必ず失敗します。何度か失敗します。失敗を繰り返しながら、人間は成長します。失敗してもいいんやって、開き直ったらいけません。それは動物です。反省だけならサルでもできますからね。人間は反省を土台にして、成長せんことには人間じゃないんですから。反省だけじゃ、サルだ。サルと同じだ。人間は問題を乗り越えて人間ですからね。そのために失敗するんですからね。問題と悩みは出てきていい。失敗も出てきていい。クレームも出てきていいんですよ。だけど、開き直るんじゃなくて、それを乗り越えるために、それは必要なことなんですよね。そのことによってしか、人間は成長しません。それを土台に成長しろよという指導をしなければならない。そして、完成度の高い仕事の水準を目指すこと。それが人間として仕事をすることである。人間として生きることである。どこまでいっても完璧はない。だけども、完成度の高さだけは追求していかなければならない。この水準でいいと、納得しておったらいかん。この水準でいいと、手をこまねいていってはいかん。ちょっとでも、一歩でも、より高度な水準というものを目指すところにね、人間的な生き方の美しさがある。**

**僕も学生時代、山岳部でしたけどね、あの頂点を目指すというのがいいんですよね。頂点を目指す。常に頂点をこの目の中に入れながらね、あの頂点に立つというね、その気概がね、なんともすがすがしい。ぜひそういうね、頂点を目指すというふうな、そういうこの意識と、もっと完成度の高い仕事ができる自分に成長していく。今、自分のやってる仕事においてね、完成度の高い仕事を目指せばね、またそれをステップに、もっといい仕事にまた自分がたどり着けますからね、どんどん、どんどん、自分がステップアップして、そして、いつの間にか、会社の中でなくてはならない人材になってるという、そういう状況になるんですよね。今の自分の仕事の水準で満足しておったら、そこには自分の成長もありませんし、より大きな幸せは出てきません。とにかくこれから、われわれが目指さなければならない、この環境破壊、自然破壊、そして、人間性の破壊。そして、この核廃棄物、この4つのことがですね、日本人の繊細な感性という、この完成度の高さを追求していく、この精神によってのみ、この問題は解決されるんですね。**

**もう１つ、この日本人がですね、これからの時代において考えていかなきゃならんことは、この新しい時代をつくり出すためのですね、原理を創造して発信する、新しい価値観、新しい考え方、新しい意識、新しい生き方の創造であります。これまで人類が一回もやったことがないような生き方ですね。これまで人類が誰も持ったことがないような欲求を持つこと。これまでの人類が誰も考えたことがないような価値観を持つこと。それなしには、新しい時代はやってきません。じゃあ、仕事の中でね、建築業に新しい価値観、新しい意識、あるいは新しい欲求というものをつくり出したら、その人は、その業界でトップに立てますよ。横並びじゃ駄目ですよ。みんながやってることと同じ水準では駄目ですよ。同じことを考え、同じ欲求を持ち、同じ価値観じゃ、これはもう横並びで、営業主体の殺し合いになりますよ。ダントツの高水準の利益率を上げていこうと思ったら、他の会社にはない独特の価値観、独特のセンス、独特の欲求、独特の生き様というものがね、そこには必要なんですよ。**

**家というのは、その場で生きる場所ですからね。そこには確実に生き様という文化が反映されるんですよ。家をつくる人間は、新しい時代の生き様を自分がやっていないといけない。その新しい時代の生き様というものを自分がすることによって、新しい家の構造の提案ができます。そして、その家に住む人間を新しい時代に合った人間に成長させることができます。家は人をつくりますよ。それだけの力を持ってるんですよ。どういう家に住むかによって、どういう人間なのかが決まってしまうほどの力が家にはありますよ。環境は人間を支配するんですよ。無意識の間に。であるが故に、建築に携わる者は、常にそういう新しい時代の息吹をね、感じ取っていなきゃなりません。新しい時代を提案しなきゃならん。家によって。特に今は激動の時代なんだ。激変しなきゃならないんだ。家も、あそこにもある、ここにもある家をつくっておったらいかん。未来を感じさせるような、独特の家を発想して、提案しなきゃいかん。そして、人々の意識を未来へといざなわなければならないんだ。家は住むところですからね、住む環境が変われば、確実に人間はいろんなものが、意識が、幸福感もいろんなものが変わってきますよ。**

**ものすごく難しい、高度な感性が要求される仕事だなと思いますよね。実際、家を建てるときには、理性でね、いろいろと設計だとか、なんだかんだいろいろやらないけませんけど、元の発想は感性ですからね。欲求も感性から湧いてくる。価値観も感じるもんだ。生き方も自分の快い生き方というのは、自分が感性で納得するもんですからね。とにかくそういうことも含んでですね、これから日本人は、新しい時代を呼び起こすための原理を創造し、世界に発信するということをしていかなきゃなりません。そういうことを具体的に考えていこうと思ったらですね、われわれは、じゃあ、政治をどう変えたらいいのか、経済をどう変えたらいいのか、社会をどう変えたらいいのか、文化をどう変えたらいいのか、文明をどう変えたらいいのか。そういうところから考えていくと、その中からね、新しい建築への発想がまた湧いてくるんですよ。社会はどう変わるのかを考えれば、その新しい社会に適合する家はありますからね。政治意識が変わればね、また人間の生き方は変わってきますからね。そのことによって、また家の構造も発想が違ってきますよ。経済がどう変わるのかということ自体もね、その中で経済を新しい経済に変えていくためのいろんな原理、方策が出てきますからね。その中から、また新しい時代の生き方が出てきね、また家の構造が変わっていく、形が変わっていく。いろんなヒントがね、いっぱい出てくるんですよ。**

**とにかく今、何一つ、今のままでいいものはありません。みんな変化を求めてるんですよ。しかも、激変を求めてるんですよ。過激なんですよ、今は。そんなちょろちょろとしたような変化では納得しない、面白くないんですよ。今は過激な変化をみんな求めてるんですよ。それほど激動の時代なんですよ。だからこそ、いろんな意味で過激な変化をね、つくり出していかなきゃなりません。人間も過激に変わらなきゃいけません。変わるっちゅうことは、成長することですよ。自分を変えてしまうんじゃない。自分を成長させることが、自分の過激な変化ですよね。過激に成長させていく。それぐらいの激しいね、生き方をせんといけません。過激に変えようと思ったらね、過激な問題と、悩みと、クレームと、苦しみが付きまとうんですよ。過激なでっかい問題が出てこないとね、人間はでっかくは変われませんからね。大人物というのはね、でっかい問題を越えた人間は大人物なんですよ。ちっちゃな問題を越えたら小人物なんですよ。人物というのは、問題がつくるんです。大きな問題が出てこないとね、大人物は出てきませんよ、絶対に。歴史の名を残すような大人物というのは皆、とんでもないようなね、でっかい問題を越えた人間だけなんですよ。**

**それが命を輝かせるんですからね。人ができんことを、今まで誰もやったことがないことをやったろう。そう思うとね、命は燃えるんですよ。自分が今、持っている力で、できることしかしようとしない状態ではね、絶対、命は燃えませんよ。退屈な人生ですよ。今、自分の持ってる力でできることをするだけじゃね。今、自分の持ってる力でできんことに挑戦してるときがね、一番おもろい、愉快、楽しい。苦しいけど楽しい。挑戦してるときが一番ね、命は輝いてますよ。だから人間の生き方の最高というのはなんなのか。人間の生き方の最高は、俺はこのために生きて、このために死ねたら本望やというものを持って生きてるときが一番幸せなんですからね。だいたい、恋愛でも、この人のためにだったら死んでもいいと思ってるときが一番幸せなんですから。そのときが一番、命が燃えてるんですから。仕事でもそうなんですよ。今、自分の持ってる力でできんことに挑戦している。そのときが一番燃えてる、一番素晴らしい、一番美しい生き方ですね。何か素晴らしい、新しいことをしたろう。そう思ってるときが一番幸せですよ。**

**結果が出なくってもね、なんか新しいことをしたろう。なんか素晴らしいことをしたろう。そのときが、なんかしらんけどね、できるかできんかわかんないけど、とにかく胸がどきどきね、わくわくね、なんか楽しい。もっと素晴らしいことをしようと思ったら、どきどき楽しくなりますよ。もっと素晴らしい仕事をしたろう。もっとお客さんに感動を与えるような仕事の仕方をしたろう。どうしたらそれができるか、考えてるときが一番楽しい。毎日毎日そういうね、わくわくどきどきのね、もっと素晴らしいこと、もっとすごいこと、それを考えてたらね、もう毎日毎日ね、わくわくどきどきね、すごい楽しい人生になりますよ。命令されるように動いてるほどつまんない人生はないですよ。命令待ちのね。とにかく今、自分に与えられてる仕事をもっと完成度の高い、もっと素晴らしい方法で、もっと周りの人を感動させ、お客さんにもっと喜んでもらえる方法で、どうしたらええやろうな、どうしたらええやろうな、考えてるときが一番ね、楽しいんですよ。やって批判されたり、やって否定されたり、やって文句を言われたら、また考えたらいいんですからね。考えてるときが一番、その幸せなときですよ。クリエイティブに考えてるときが一番幸せですよ。**

**そういう意味で、われわれはですね、日本人はこれから、今まで世界になかった新しい政治をつくり、新しい経済をつくり、新しい社会をつくり、新しい文化をつくり、新しい文明をつくっていかなければならないんですよ、日本人が。それを中国の方にやがて教えなければならないときが来るんですよ。かつて日本人は、中国からいろんなことを教えてもらいましたけどね、いまや歴史は逆転してね、こちらのほうが相手に教えなきゃいかん。恩返しをするときがやってきたんですよ。そして、われわれはインド人にもやがては教えなければならない。アジアの時代の火付け役になるのが日本ですからね。早くそのことに目覚めないとね、あっという間に200年は進んでしまいますよ。今のままで日本人がですね、もしこれ、歴史の表舞台から去って、そのままでこれ、衰退していってしまったら、日本民族ってなんだったんやと。結局、薬局、郵便局と申しましょうかですね、日本民族とは侵略者やった。エコノミックアニマルやった。で終わってしまうんですよ。こんな情けない、そんな汚名をかぶされたままで、おめおめとですね、歴史を去ってしまうような、そんな情けない民族じゃないはずなんだ。われわれが今、持ってる文化を見てみろと。これから世界が目指すもんじゃないか。あらゆる宗教があって、殺し合っていない。日本に来れば、世界の食卓がある。世界のファッションがある。誰も戦っていない。こんな国って他にはないですよ。それが日本の文化なの。家に入ればね、お稲荷さんと、神棚と仏壇が同居してる。こんな変な家はないですよ。世界のどこにも。神様はどこに行っても一人ですよ。お稲荷さんがあったらね、仏壇と神棚はやっぱり、なんか一緒には祭れませんよ。それを祭れるという、この日本民族のね、精神というかね、この文化の原理とはなんなのか。それをこれから、われわれは自ら自覚して、世界に教えていかなければならないんですよ。**

**日本以外の国はね、理性的合理性、理性的整合性を求めて矛盾を排除するんですよ。だけど、日本人は、矛盾を内包した真実を生きる民族なんですよ。日本人だけがね、真実を生きることができる力を持ってるんですよ。日本以外の人間はね、みんな真理で生きてる。だから戦うんですよ。真理というのは、真理は一つですからね、違うものを同居させませんよ。だから、戦わなきゃならんのですよ。真理で生きたらね、考え方が違ったら、離婚せんないかんのですよ。価値観が違ったら一緒に仕事はできないんですよ。だけど、今、日本人もね、そういう欧米の風潮に染まってね、自分と同じ考え方の人間しか愛せない。自分と同じ価値観の人しか一緒に仕事はできん。そういう情けないね、欧米人みたいなね、人間性になってしまってるんですよ。日本の伝統文化はそんな情けないもんじゃない。日本人は矛盾を同居させながら、矛盾を生かし切って生きる真実の力を持ってるんだ。社会というのは、自分とは違う価値観の人と、自分とは違う性格の人と、自分とは違う考え方の人と共に生きていくのが社会だ。社会性とは、自分とは違う考え方の人と共に仲よく生きる力が社会性なんだ。自分と違う考え方の人とは共に生きていけん。社会性がないんだ。社会性がないっちゅうことは、人間性がないんだ。人間性がないっちゅうことは、人間じゃないんだ。横柄なことを言うならばね、日本人以外は人間じゃないんだ。だけど、日本人も今、欧米化されてるから、もう誰も人間はおらんと。なんなんやっちゅうことですね、もう。**

**本物の人間を目指していかないかんと。社会の中で生きるっちゅうことはどういうことなんや。それに目覚めればね、今よりもっと素晴らしい生き方を人類はできますよ。そういうふうにして、新しい生き方をつくり、新しい家族のあり方をつくり、その新しい家族の意識に合った家をつくっていったらいいんですよ。新しい価値観を実現する家の構造を考えたらいいんですよ。そしたら、新しい時代の人間の心は育ってきますよ。家づくりは思想の反映ですからね。建築家は哲学者なんだ、みんな。黒川紀章も哲学者なんですよ。言ってることを聞いたら、哲学そのものですから。思想を語らないと、家は建てられない。設計できない。どういう内容にするかを決めないと、形は生まれません。形は内容の表現ですからね。機械でも、新しい機能が付け加わったら、確実に機械の形は変わるんですよ。形は内容の表現なんですよ。家の形も、いかなる内容を表現してるのか。この哲学がなかったら、建築なんて本当には建てられませんよ。他人から習った形をそのままつくってるだけじゃ、これは奴隷の仕事ですよ。自分でその内容を考えて、その内容を表現する形を考えて、初めて人間の仕事です。**

**形は内容の表現である。内容が変われば形が変わる。形が変われば内容は変わるんだ。どんな家に住むかによって、どんな人間ができるかが決まってしまうんだ。それほど形は恐ろしいですよ。その意味もあってですね、われわれは新しい時代の形である、新しい政治とはどういう政治なのか。新しい経済とはどういう経済なのか。新しい社会はどういうこの社会規範を持ち、どういう倫理、道徳があり、どういうふうな思いで社会が成り立つのか。新しい文化とはなんなのか。新しい文明とはなんなのか。それを考えていったら、新しい時代の建築が見えてきます。建築は思想の表現なんですから、確実に時代を表現し、社会を表現するんですよ。時代が変われば、確かに建築、変わっていったでしょう。『はじめ人間ギャートルズ』の時代の建築とね、奈良時代の建築とね、平安時代の建築と、鎌倉時代の建築と、江戸時代の建築と、今の建築は全然違いますよ。内容が変わったから、建築が変わったんですよ。単に科学が発達したからこんな建築、建てられるようになったんじゃないんですよ。思想が変わってるんですよ。時代が変わってるんですよ。だから、新しい時代には、確実に新しい家の形が生まれてきますよ。風土が変われば、家の形もちゃうんですからね。いくらでも新しい家の形はクリエイトできますよ。内容がはっきりしたならばね、つくれますよ。**

**とにかくそういうことでですね、これから日本人がやっていかなきゃならない仕事というのは、この科学技術文明をその質において完成させて終わらせる。そして、新しい時代を呼び起こすための原理を創造して発信する。激変をつくり出していかなきゃならんのだと。そのためにね、今、日本はいったい何をせんないかんのか。日本に激変をつくり出そうと思ったら、今、何が大事なのか。それは大遷都です。東京からまったく新しい所に新しい首都をつくる。分都構想じゃない。政治機能の分散ではない。東京は近代日本を支えた都だ。東京は近代日本を支えた都としての価値を保存しながら、発展、成長させていく段階に入った。東京に都がある限り、日本は東京とともに沈没だ。日本をさらに新しい発展段階に入れようと思ったら、日本は確実にまったく新しいところに、まったく新しい素晴らしい首都をつくらなければならない。そうなったら、アサヒグローバルはものすごく発展しますよ。遷都ですからね。箱物いっぱいつくらないかんのですからね。そのときにみんなに選んでもらえる家を提案せんといけませんよ。もうちょっとでね、この構想は政治課題に上ってきます。**

**今、今年の４月からね、国会に感性論哲学の勉強会をするグループができました。だからもうちょっとでこれは、大遷都が政治議題に上ってきます。新しい都をつくるということから、新しい日本は始まるんですよ。そして、これから日本は、誰も考えたことがないような、素晴らしい第三次高度成長、アッと驚く為五郎ですね、本当にもう素晴らしい大発展のときがこれからやってきます。第２のギリシャになる。第２のルネサンスになる。あれほどの素晴らしい文化が、これから日本に始まるんですよ。そのための心の準備をね、皆さん方もしといてください。大発展に備えたね、そのときに選ばれる建築会社になっとかないかん。風土を変えなければ、新しい時代はやってこないんだ。日本の古代は奈良時代、大和地方、中世は平安京都、そして鎌倉、もういっぺん京都に室町時代を持っていったのが大間違いでね、そこで日本は麻のごとく、いったん日本の中心になった風土は、もう二度と日本を発展させることはできない。ようやく関東平野に都を持っていって、日本は新しい発展段階に入った。風土を変える度に日本は発展してきたんだ。日本を新しい発展段階に乗せようと思ったら、確実に東京から新しいところへ都を持っていかないと、日本の新しい発展段階は出てこないんだ。これは歴史の教訓だ。もう江戸は、東京は、政治の中心となって400年、今年は2004年、江戸は1604年だった。400年もたってるんだ。いかに広い関東平野といえども、余命は尽きた。新しい一歩の発展は、新しい風土に都を変えなければ成り立たないんだ。これからは不動産と建築業の時代だ。不動産業者と建築業者の方々が集まって、新しい都を日本につくろう。その相談をしてください。そしたら、日本には素晴らしい時代が始まります。というところで、今日は話を終わります。どうもありがとうございました。**

**司会：ありがとうございました。**